

# 令和元年度（2019年度）調査研究事業報告書

## 生涯学習事業に係る県内の現状 及び県外の先進事例



【くまもと県民カレッジ(消費者コース)】  
受講生が現地学習でフェアトレードの商品を見ている様子



【地域の人づくり講座（菊池市）】  
防災士が地域のハザードマップを作成している様子

令和2年（2020年）3月

熊本県教育委員会

## 目 次

はじめに	1
第1章 調査研究の概要	2
第2章 市町村の生涯学習事業の現状	3～19
第3章 「地域の人づくり講座」1年次経過報告	20～27
【事例1】公民館を中心に活動する人材を育成することを目的とした講座（長洲町） 「伝えたいことをカタチにする～公民館で講師デビュー!?!～」	
【事例2】地域防災のリーダーとして活動する人材を育成することを目的とした講座（菊池市） 「防災士のためのスキルアップ講座」	
【事例3】地域リーダーの育成を目的とした講座（宇城市） 「わがまちを元気にしたい人大集合!!～元気な「まちづくり」をスタート!～」	
【事例4】自治公民館の活性化を目的とした講座（津奈木町） 「公民館が元気になると まちが元気になる～未来につながる 津奈木のまちづくり～」	
第4章 地域課題解決に向けた講座企画例（くまもと県民カレッジ主催講座）	28～31
【事例1】消費者コース 「『エシカル』な『消費』～何をどう買うのか、それが問題だ～」	
【事例2】キャリアアップコース 「わくわく人生100年時代～第2・第3の人生を楽しむ～」	
【事例3】防災活動コース 「今から始める防災活動入門～防災の学習会にすぐ使える!～」	
【事例4】孫育てコース 「バァバ・ジィジの孫育て～孫との時間を楽しむ方法～」	
第5章 他県の学習成果活用を促す先進事例	32～43
【事例1】学習成果活用、地域リーダーの育成 福岡県岡垣町中央公民館「若潮学級」と「成人講座ゆうま」	
【事例2】公募による市民企画講座 群馬県渋川市中央公民館他「わくわく学び塾」（渋川市自主企画生涯学習講座）	
【事例3】次世代の人材育成 広島県東広島市志和生涯学習センター「中学生対象の地域リーダー養成講座」	
【事例5】人材育成で講座をサポート 奈良県奈良市生涯学習センター「パソコン学習サポーター・託児ボランティア」	
〔資料〕	
市町村対象アンケート調査票	44～47

## はじめに

平成30年6月に閣議決定された第3期の教育振興基本計画では、2030年以降の社会を展望した教育施策の重点項目として「『超スマート社会(Society5.0)』の実現に向けた技術革新が進展するなか、人生100年時代を豊かに生きていくためには、『人づくり革命』、『生産性革命』の一環として、若年期の教育、生涯にわたる学習や能力向上が必要」であることが示されており、基本的な方針の一つとして「生涯学び、活躍できる環境を整える」ことが掲げられています。また、同年12月に中央教育審議会において、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)」が取りまとめられ、地域における社会教育の意義と果たすべき役割として、「『社会教育』を基盤とした人づくり、つながりづくり、地域づくり」が示され、「誰もが生涯にわたり必要な学習を行い、その成果を個人の生活や地域での活動等に生かすことのできる『生涯学習社会』実現への取組をより強固に進める必要がある」と述べられています。生涯学び続けることができる環境の中で人づくりを行い、社会の中で活躍する場、生かすことができる場が求められています。

前述の国の動向を受け、本県におきましても、本年度からの新規事業として「地域の人づくり講座」をスタートさせました。3年間モデルとなる市町村と協同して、地域人材育成を目的とした学習機会の提供を行い、学習成果の活用として継続した地域活動等につなげるための仕組みづくりを行います。本年度は、4市町と協同実施し、1年次の成果と課題を整理し、2年次の方向性を明らかにしたところです。今後、好事例を積み重ね、市町村へ情報提供を行い、市町村における生涯学習の充実に向け支援してまいります。

本調査研究報告書では、市町村の生涯学習に係る現状、1年次の地域の人づくり講座、地域課題解決に向けた講座企画、学習成果活用を促す先進的な事例をまとめました。

本調査研究報告書が各市町村等において活用され、社会教育・生涯学習に係る取組が尚一層充実するための一助となれば幸いです。

最後に、調査、視察に御協力いただいた市町村教育委員会及び県外教育委員会等関係者の皆様方に心から感謝申し上げます。

令和2年(2020年)3月

熊本県教育庁教育総務局社会教育課長

井芹 護利

## 第1章 調査研究の概要

### 1 調査の目的

#### (1) 市町村支援

市町村における学習機会提供事業の充実等、生涯学習振興の支援のため、地域課題解決に向けた学習プログラムの開発及び県内外の先進事例等の情報収集を行い、市町村教育委員会をはじめとする関係機関に提供するとともに、次年度の事業に活用する。

#### (2) 市町村基礎情報収集

生涯学習推進及び社会教育行政に必要な基本的情報を収集し、社会教育課事業の基礎資料とする。

### 2 調査の対象

県内全市町村教育委員会（社会教育・生涯学習担当課：45市町村）、熊本市公立公民館（19館）、および、他県の公民館等（6県：9か所）

### 3 調査の実施期日

令和元年（2019年）11月11日～令和元年（2019年）12月2日

### 4 調査内容及び方法

(1) 県内市町村教育委員会、熊本市公立公民館にアンケート記入を依頼し、次の点について回答を得た。

○主催事業について

○生涯学習全般について

(2) 生涯学習講座等を実施している他県の公民館等に対し、聞き取り調査を行った。

【福岡県岡垣町】 岡垣町中央公民館 「若潮学級」「成人講座ゆうま」

【群馬県渋川市】 中央公民館他 「わくわく学び塾」

【広島県東広島市】 東広島市志和生涯学習センター 「中学生対象の地域リーダー養成講座」

【奈良県奈良市】 奈良市生涯学習センター 「パソコン学習サポーター・託児ボランティア」

### 5 県内市町村・熊本市公立公民館調査回収率

対 象	依頼市町村数	回収市町村数	回収率 (%)
市 (教育委員会)	14	14	100
町 (教育委員会)	23	23	100
村 (教育委員会)	8	8	100
熊本市公立公民館	19	19	100
全 体	64	64	100

## 第2章 市町村の生涯学習事業の現状

市町村の生涯学習に関する現状を把握するために、住民を対象とした講座内容や講座の実施回数、講座終了後の評価等について県内各市町村へアンケート調査を実施した。調査結果の概要は以下のとおりである。(数字は単位記載のものを除き市町村数)

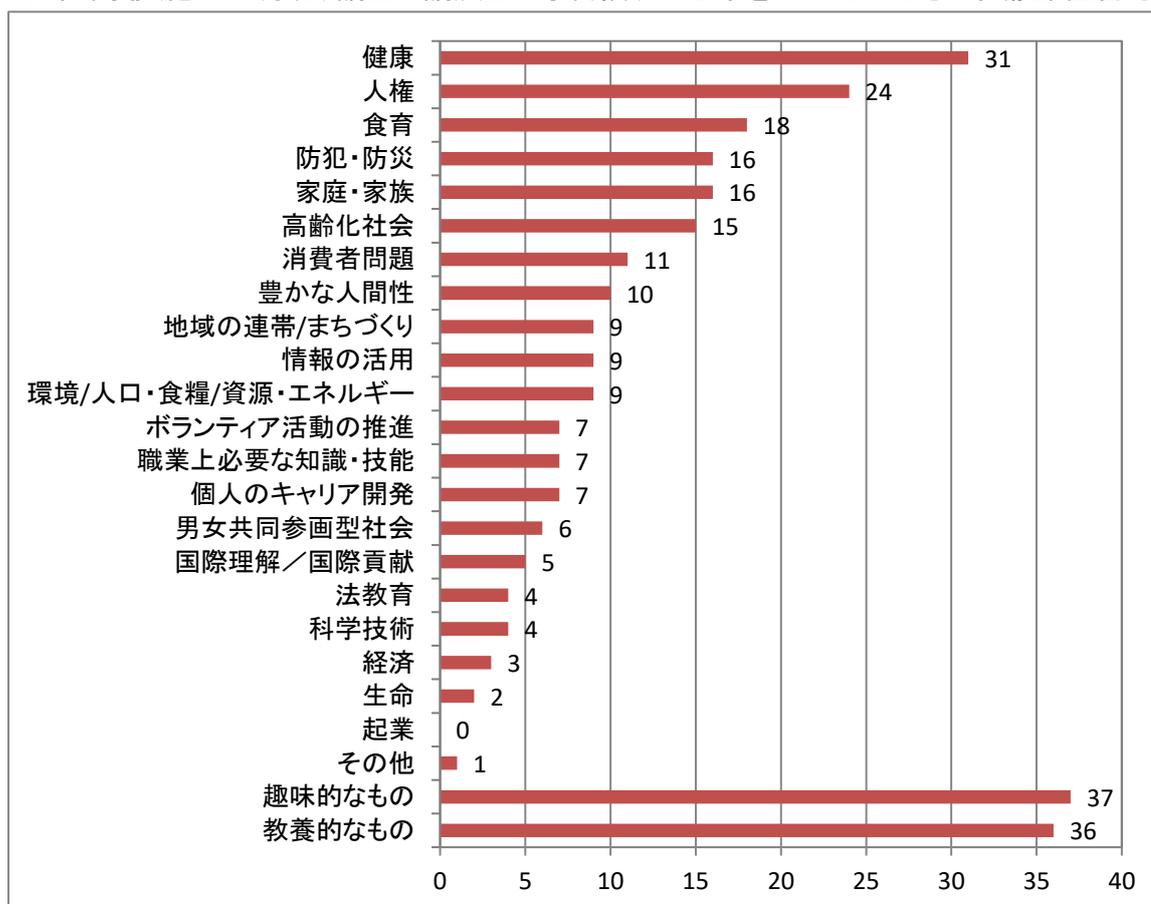
問1 本年度、貴市町村の教育委員会（公民館等も含む）主催で、生涯学習に関する講座や講演会を実施しましたか。（予定も含む）

【表1：各市町村における講座の実施の有無】

	H29	H30	H31(令和元)
実施した	45	45	45
実施していない	0	0	0

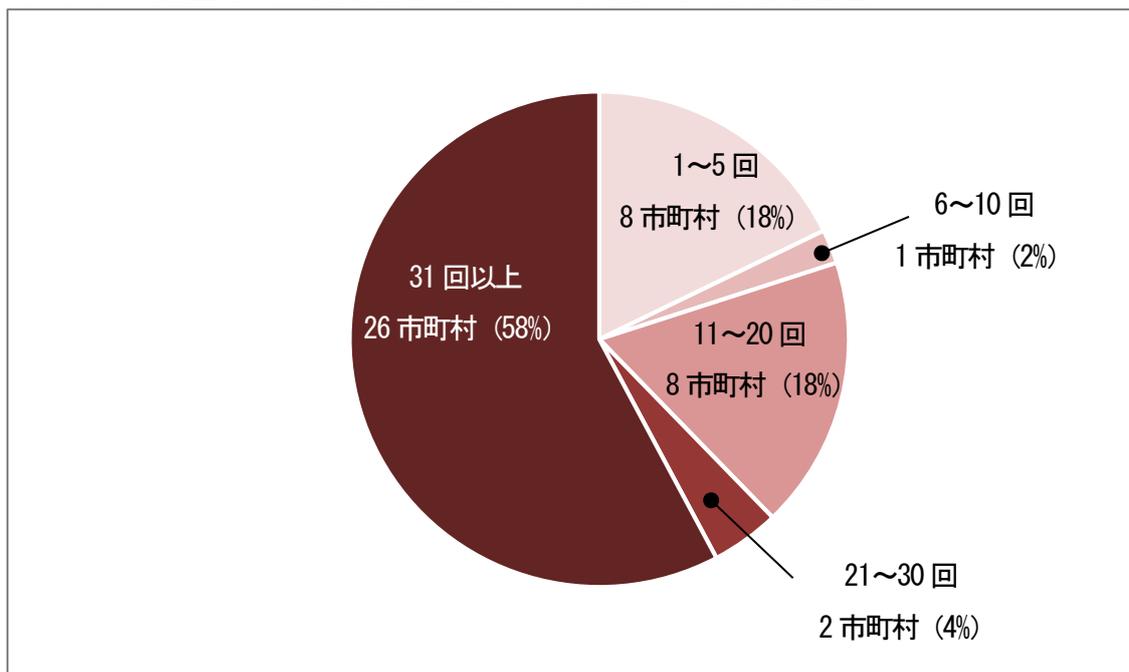
本年度も全市町村が、主催講座、講演会等を実施し、講座の定着が図られている。

問2（1）本年度実施した（予定）講座や講演会の学習領域に○印をつけてください。〔複数回答可〕



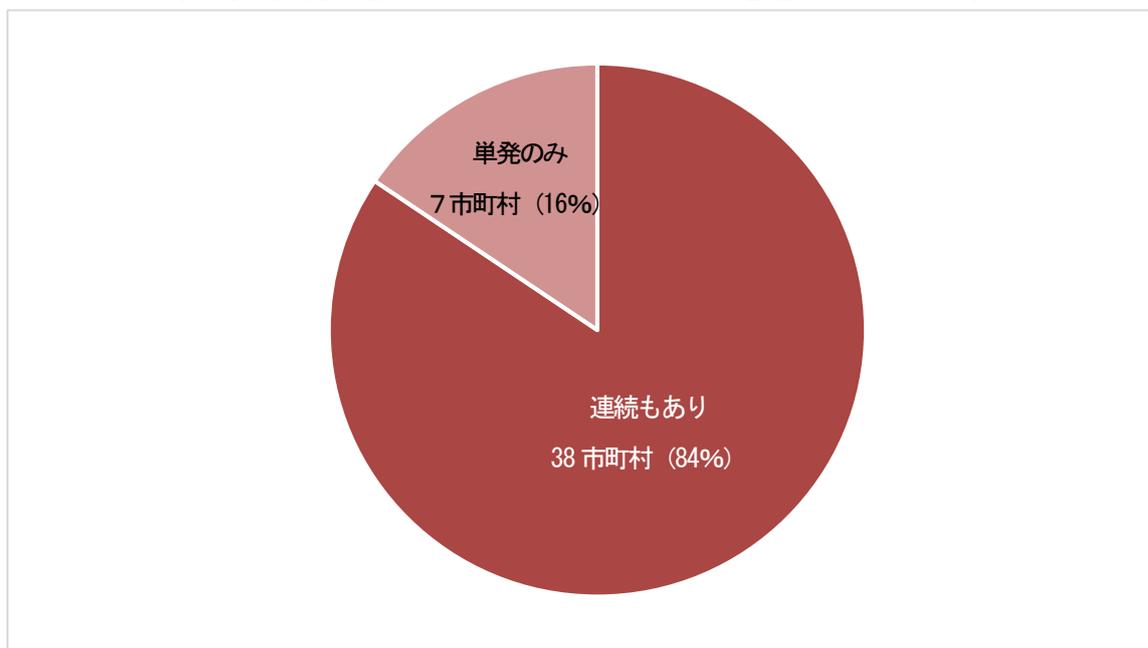
実施した講座等の学習領域は、「健康」が一番多く、次いで「人権」「食育」「防犯・防災」「家庭・家族」「高齢化社会」の順であった。「健康」が3市町増となっており、約7割の市町村で実施されていることがわかる。

(2) (1) の講座等の合計実施回数を選んでください。(予定も含む)



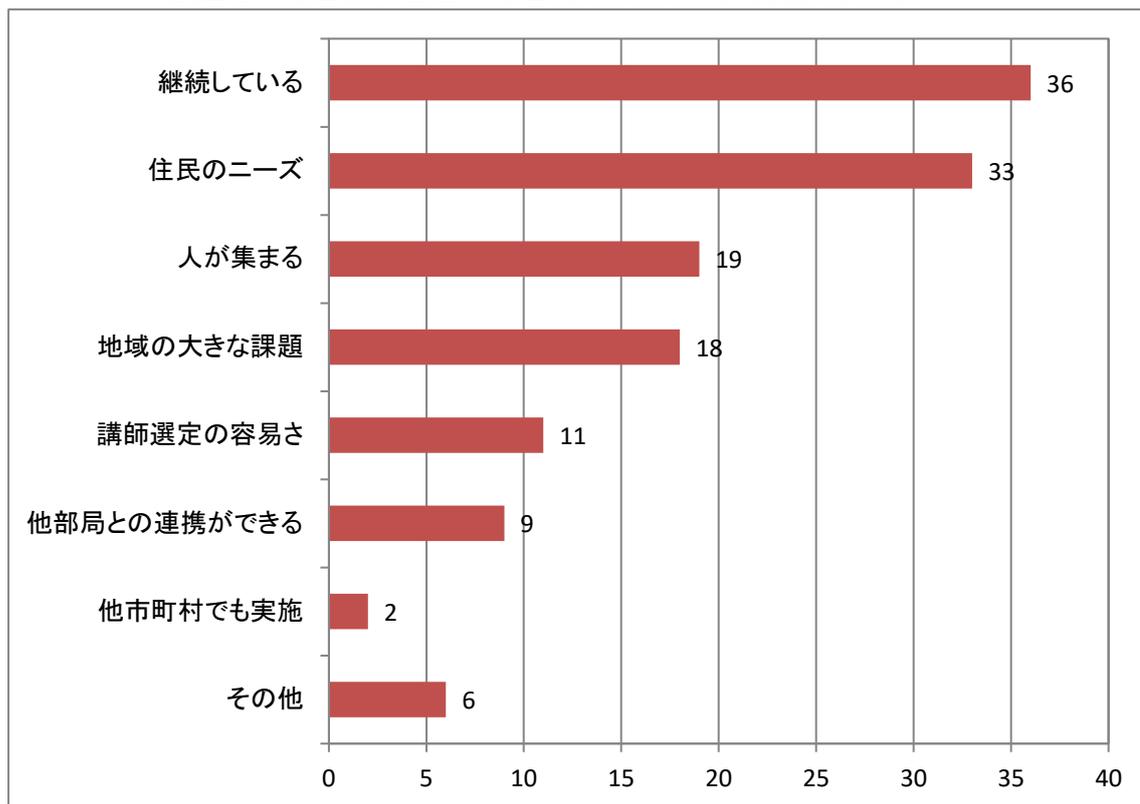
講座の年間実施回数は、「31回以上」が26市町村と一番多く、次いで「11~20回」「1回~5回」が8市町村、「21回~30回」が2市町村、「6~10回」が1市町村の順であった。「31回以上」実施している市町村は、昨年度から7市町村増えており、講座数が増加傾向にあることがわかる。

(3) (1) の講座等の実施形態について、当てはまるものを選んでください。



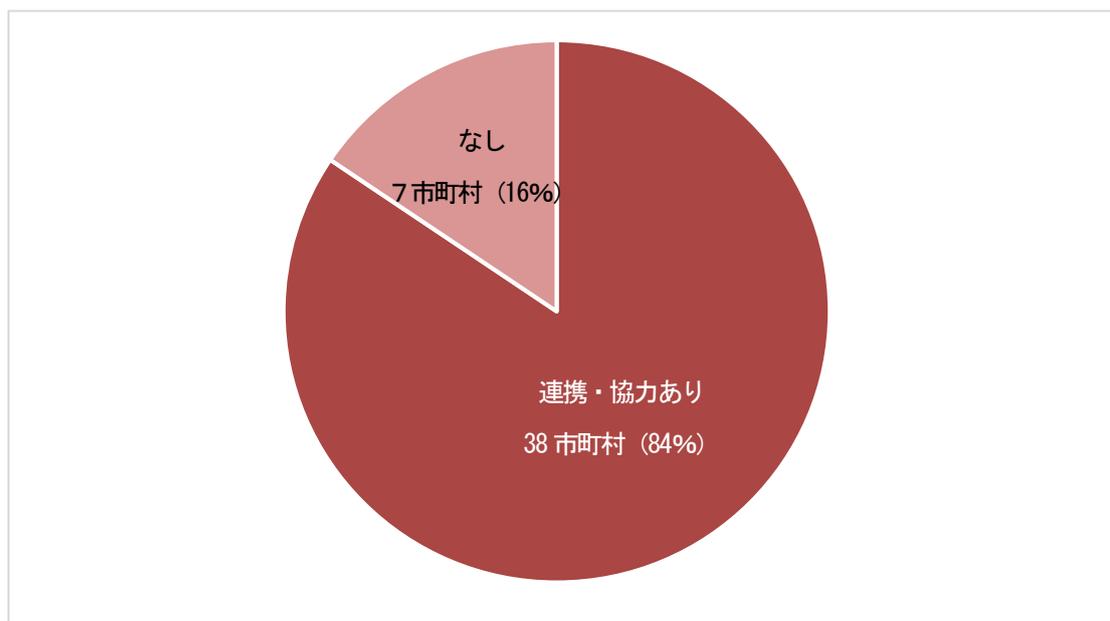
講座の実施形態は、「連続した講座」が38市町村(84%)、「単発のみの講座」が7市町村であった。昨年度と比較すると、連続した講座を実施している市町村は、3市町村増加している。

(4) (1) の講座等の学習領域を選んだ理由は何ですか。〔複数回答可〕



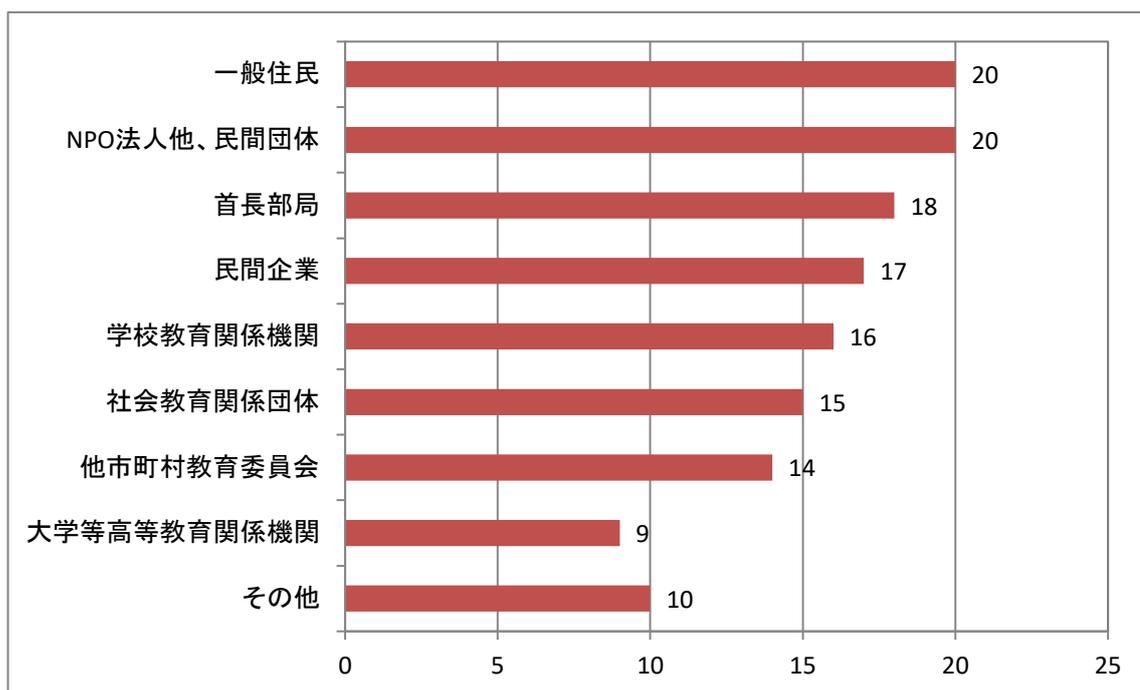
学習領域選定の理由は、「継続しているから」「住民のニーズが高いから」「人が集まるから」「地域の大きな課題だから」の順であった。

(5) (1) の講座を実施するにあたり、連携・協力した個人・機関（構成員を含む）がありますか。



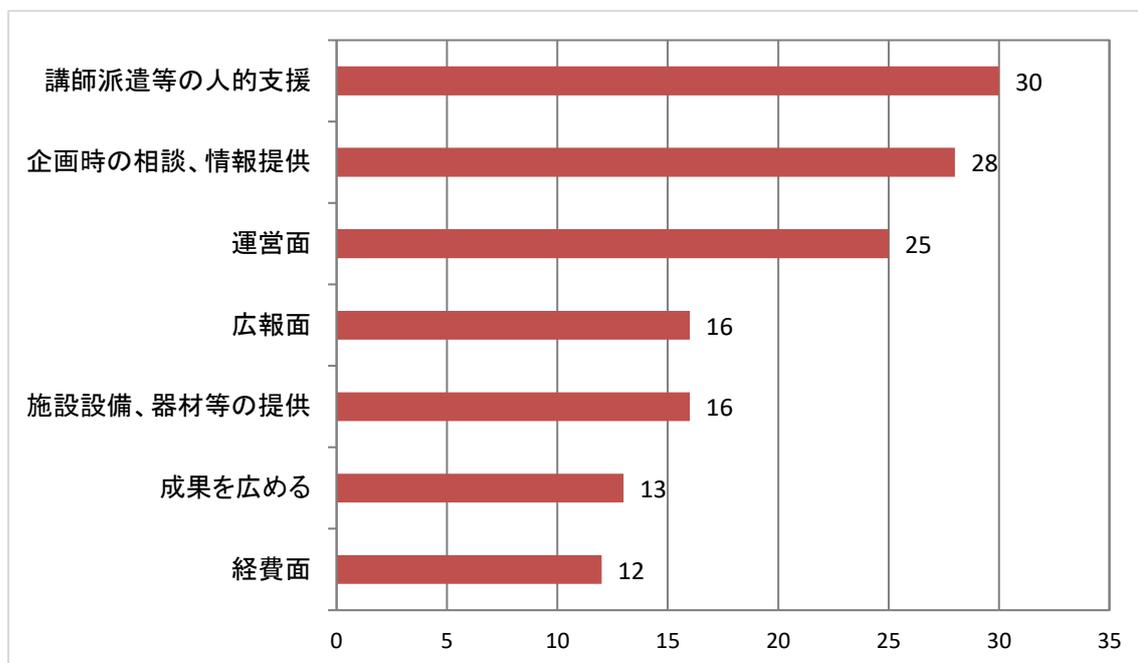
「連携・協力」を行った市町村は、38市町村（84%）であった。

(6) また、連携先は、どのような機関ですか。〔複数回答可〕



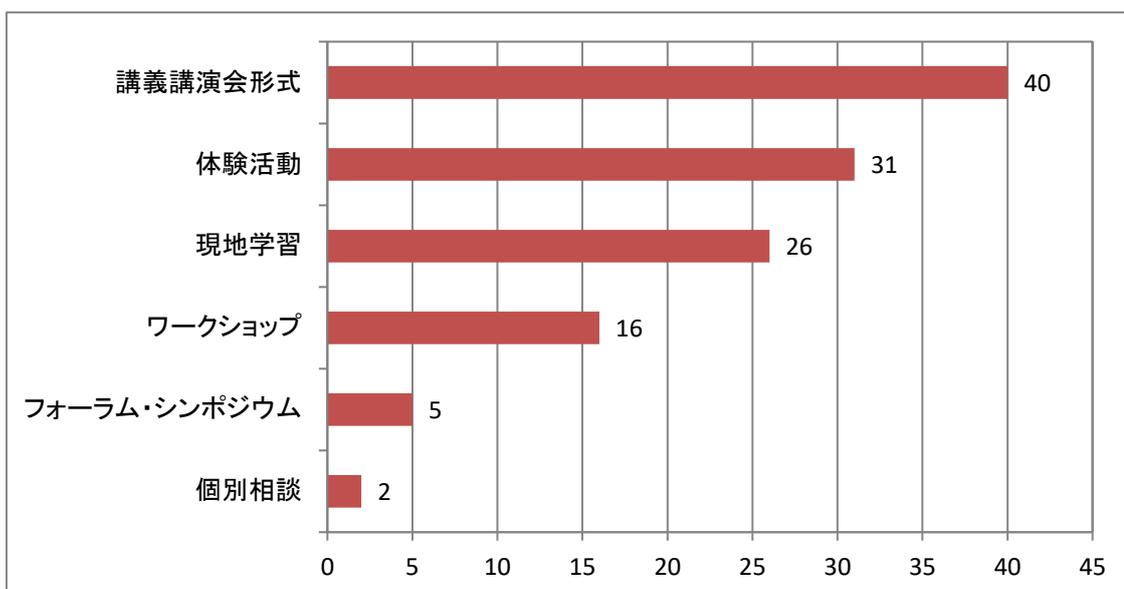
講座実施の連携先として、「一般住民」、「NPO法人他、民間団体」が上位となった。連携機関の総数は、121 機関から 139 機関と増加しており、複数と連携している市町村は、32 市町村であった。このことから、より多くの機関と連携、協力している様子が窺える。

(7) (6) の機関とは、どのような内容や場面で連携・協力しましたか。〔複数回答可〕



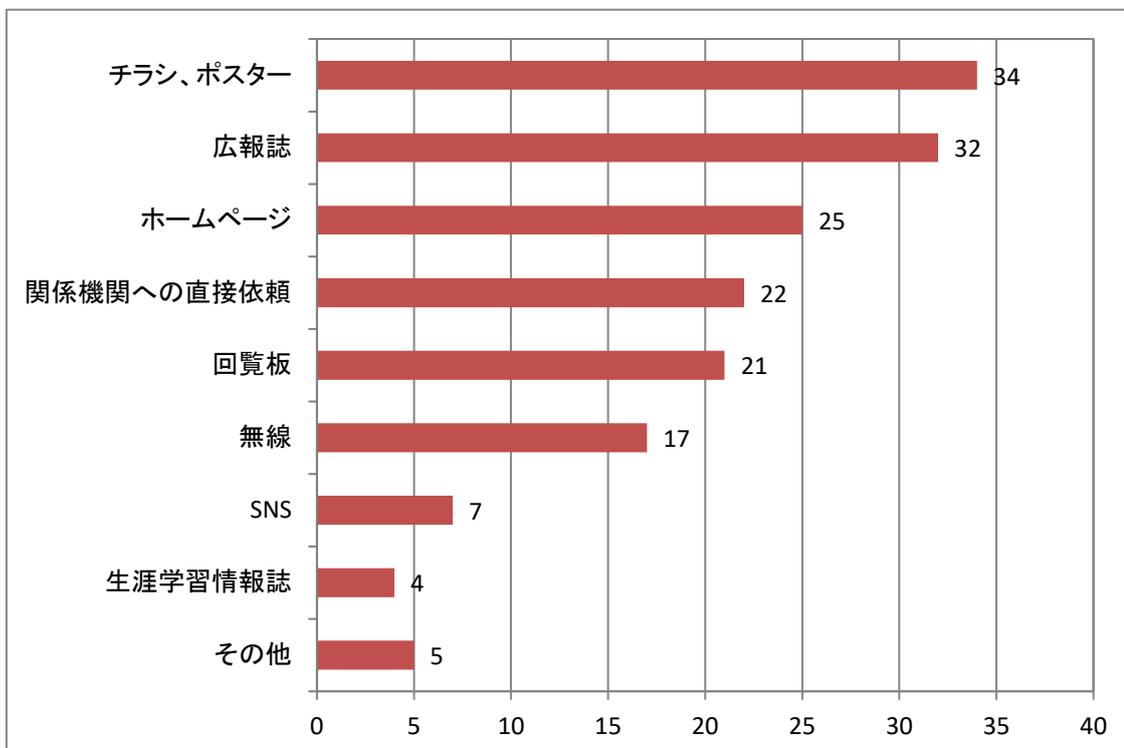
連携・協力の内容や場面については、「講師派遣等の人的支援」「企画時の相談、情報提供」「運営面」が上位となった。連携、協力内容の総数は、昨年度の 134 から 140 に増えており、徐々に連携、協力の内容の幅が広がりつつある。

(8) (1) の講座等はどのような学習形態でしたか。〔複数回答可〕



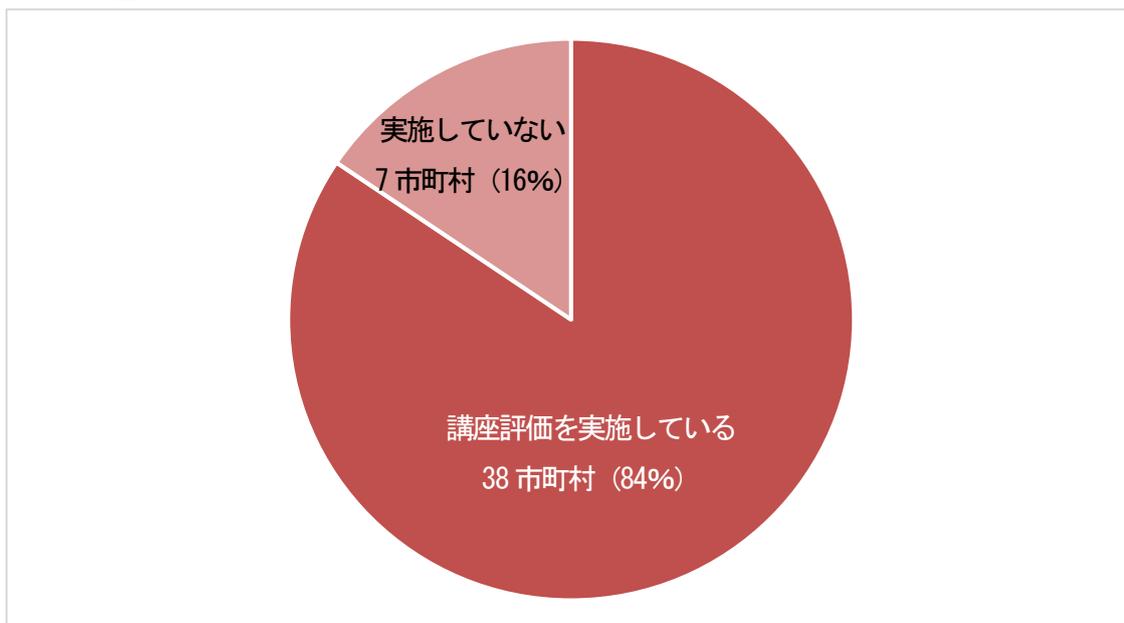
講座の学習形態は、「講義・講演会形式」が最も多かった。昨年度と比較すると、「体験活動」や「現地学習」「ワークショップ」が増えており、参加体験型の学習が広がりを見せている。

(9) 広報はどのような手段で行っていますか。〔複数回答可〕



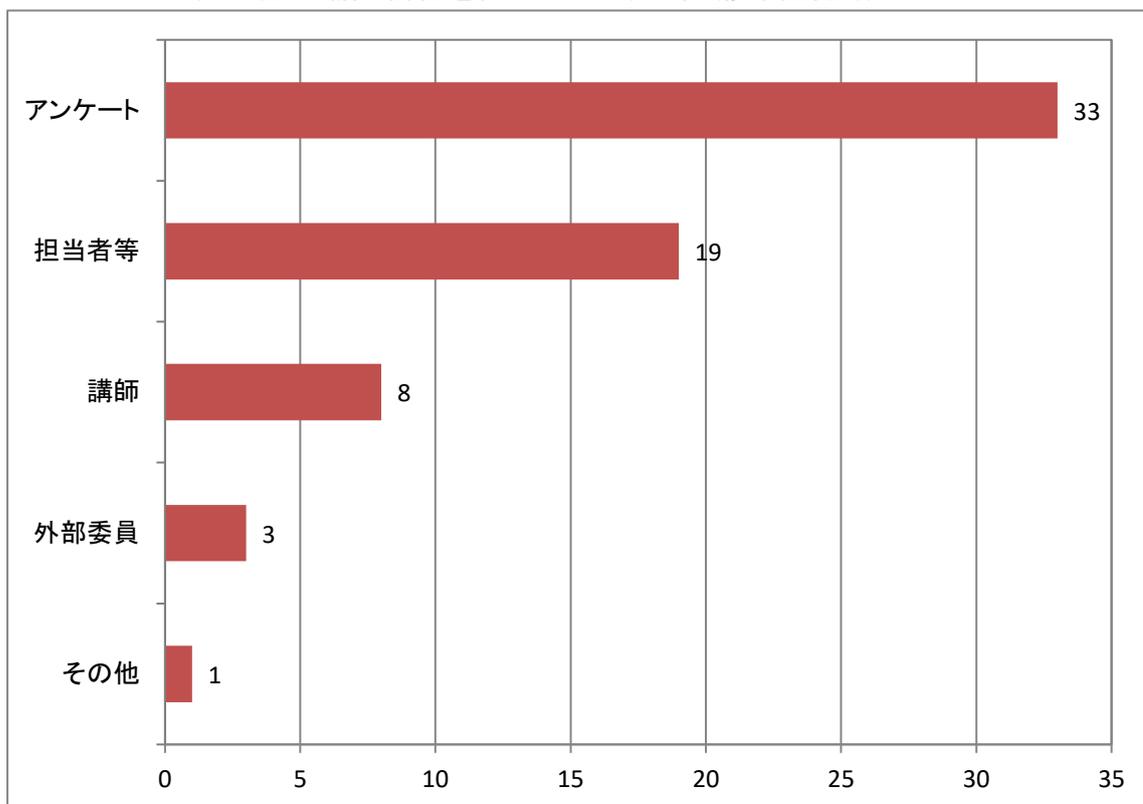
講座の広報手段は、「チラシ、ポスター配布」「広報誌掲載」「ホームページ掲載」「関係機関への直接依頼」「回覧板」の順であった。今後、紙媒体だけではなく、SNSの活用等、受講生の年代を考慮して広報の手段を工夫していく必要がある。

(10) 講座評価を行っていますか。



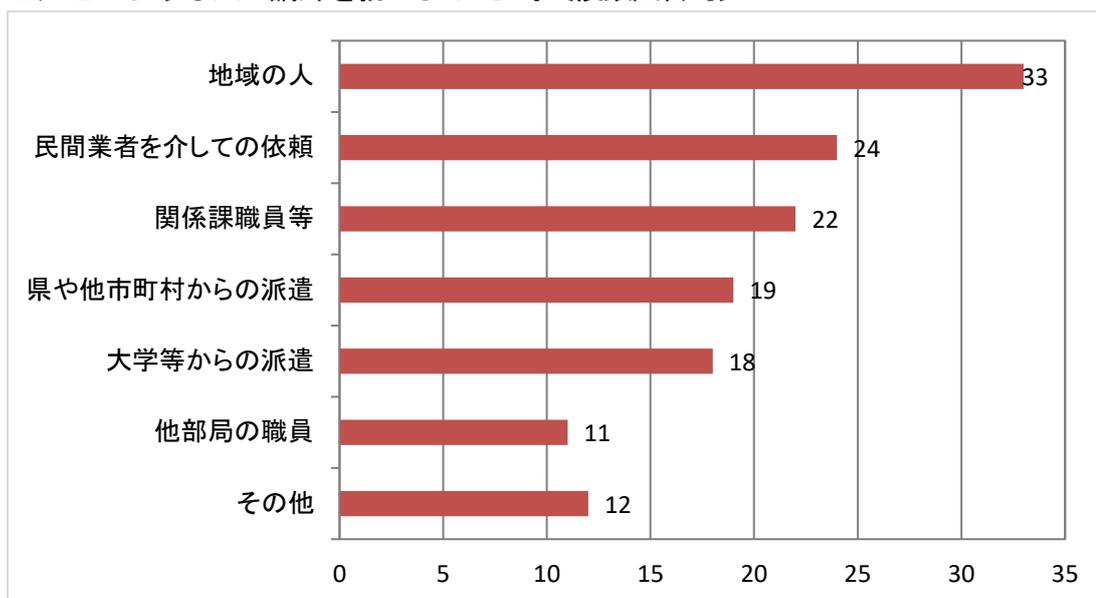
講座評価を行っている市町村は、38 市町村（84%）であった。

(11) どのような方法で講座評価を行っていますか。〔複数回答可〕



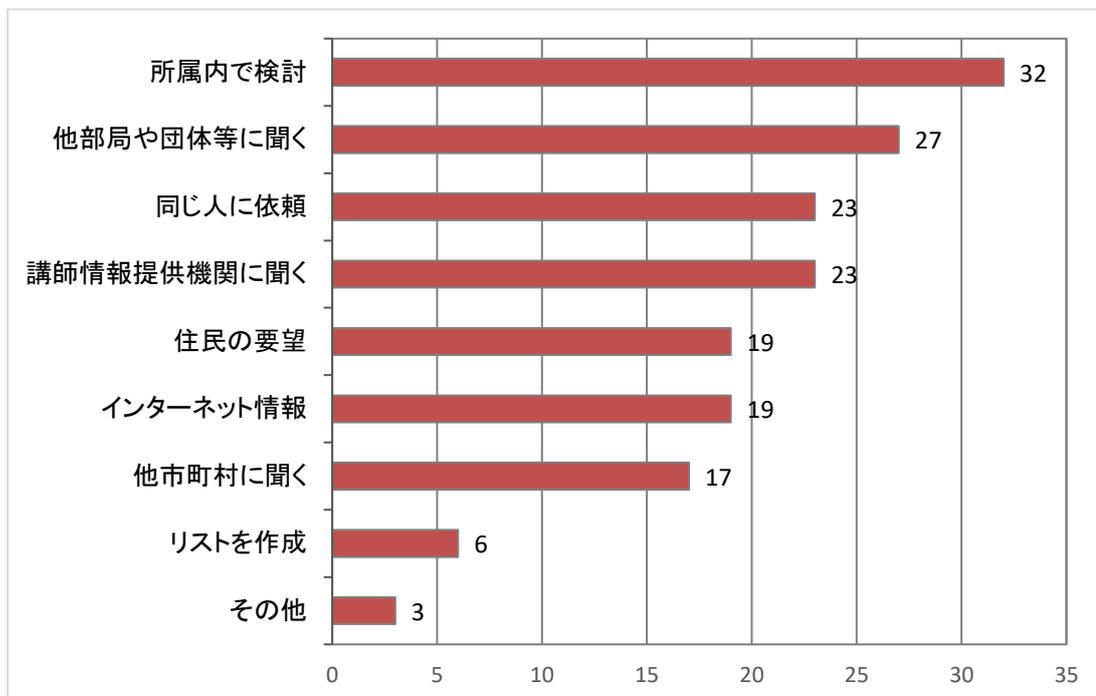
講座の評価方法については、昨年同様、「アンケート」による評価が最も多かった。「担当者等」の評価については、昨年度から5市町村、「講師」による評価については、4市町村増加しており、以前よりも複数の方法で講座評価を実施する市町村が増えた。

(12) どのような人が講師を務めましたか。〔複数回答可〕



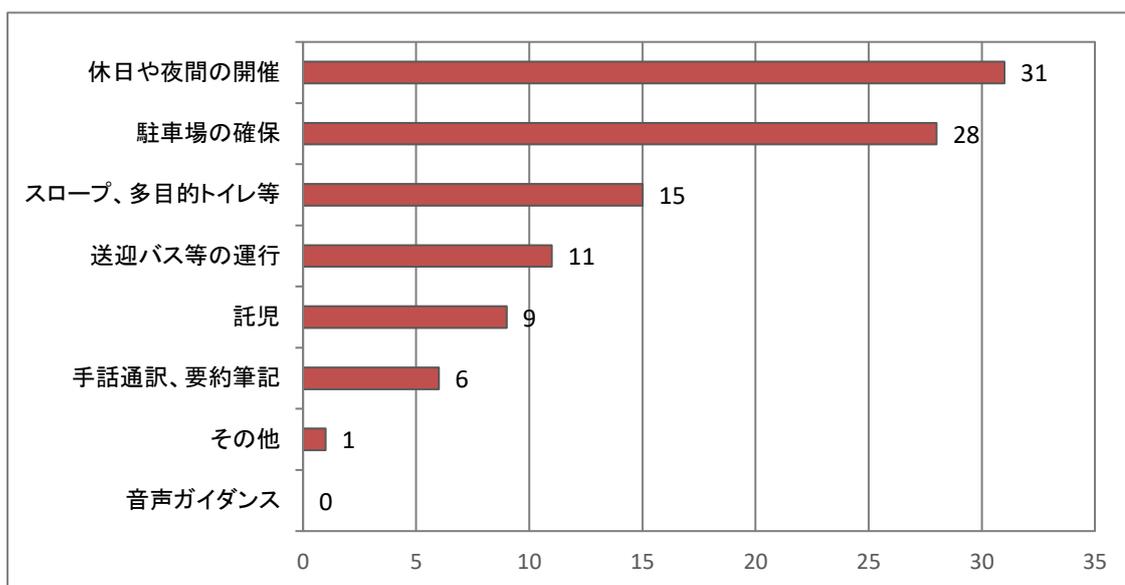
講座を務めた講師は、「地域の人」「民間業者を介しての依頼」「関係課職員等」「県や市町村からの派遣」の順であった。その他には、民間企業、NPO法人、ボランティア団体、高校生（部活動）などが講師を務めたり、生涯学習者名簿の活用を図ったりしている市町村もあった。

(13) 講師情報をどのように得ていますか。〔複数回答可〕



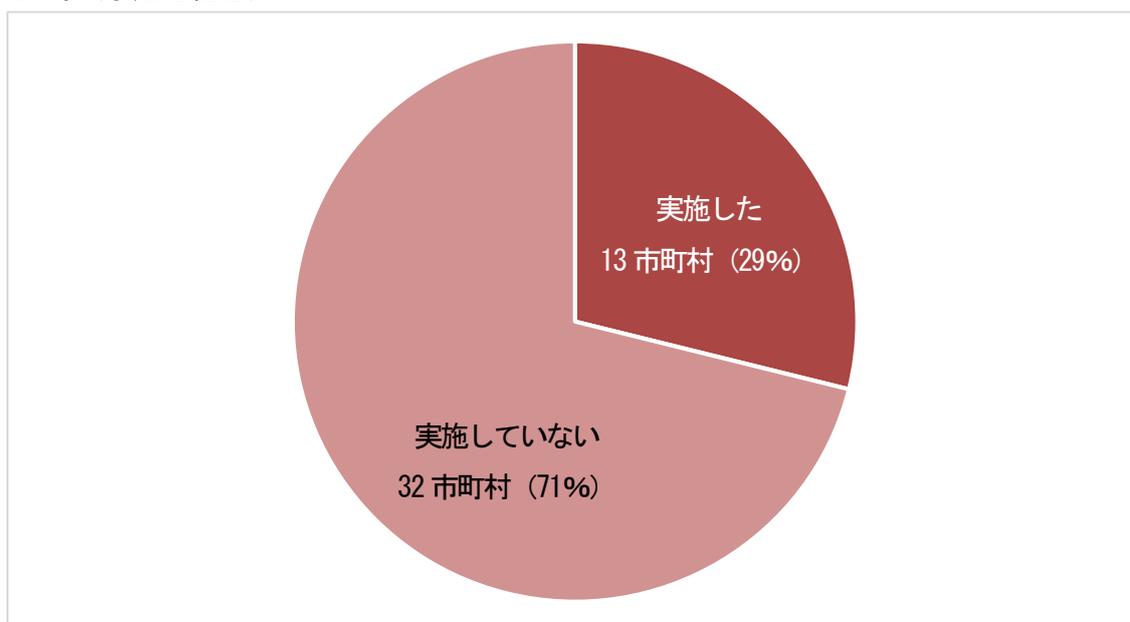
講師の情報源は、「所属内で検討」が最も多く、次いで「他部局や団体に聞く」となっている。「他部局や関係団体に聞く」については、昨年度から7市町村増であった。他部局や関係団体との連携が図られつつあることが窺える。

(14) 住民が参加しやすいように、どのような支援を行っていますか。〔複数回答可〕



住民が講座等に参加しやすくなるための支援については、「休日や夜間の開催」「駐車場の確保」「スロープ、多目的トイレ」「送迎バスの運行」「託児」「手話通訳、要約筆記」の順であった。支援は、全市町村で実施しており、複数の支援を行っている市町村は、17市町村であった。支援の総数は、昨年度の97から101と微増していることから、受講生の属性やニーズに応じた支援を行う市町村が増えつつある。

問3 学習成果活用を視野に入れた講座（人材育成や仲間づくり、仕組みづくり等）を実施しましたか。（予定も含む）



学習成果活用を視野に入れた講座を「実施した」市町村は、13市町村（29%）であった。昨年度と比較すると6市町村減少していた。学習成果活用を視野に入れた講座が定着していないことが窺える。

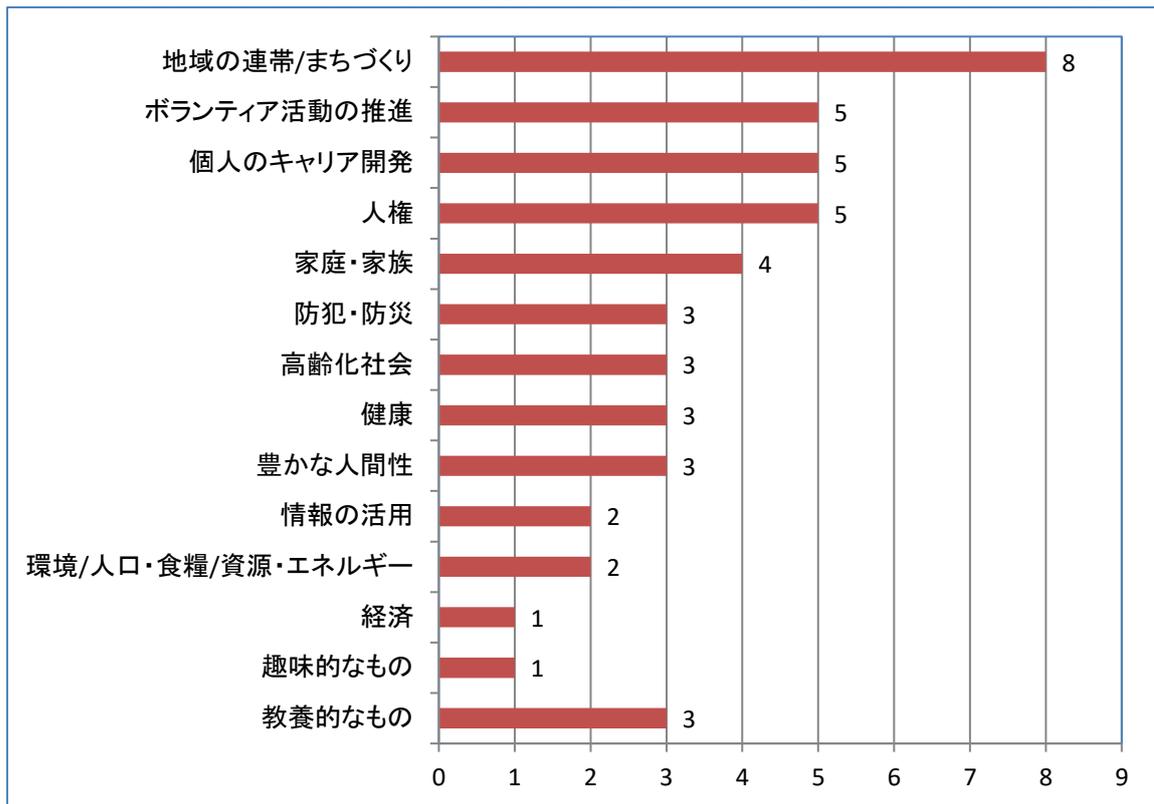
次の表に示すのは、学習成果活用を視野に入れた講座の具体例である。(回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。)

市町村等	講座名	講座内容
八代市	全講座	講座内で仲間づくりを実施。
天草市	読み聞かせボランティア講座	基礎講座（初心者向け講座、スキルアップ講座）、手遊び講座、活動講座。実践発表と交流会。
	パソコン講座	ワード、エクセルをから、年賀状作成等を学ぶ。(各6回)
	ボランティア講座	ボランティア活動への参加促進と人材育成を図る。
山鹿市	図書館ボランティア養成講座	図書館運営のボランティアができる基礎からの内容を学習し実践につなぐ。
菊池市	防災士のためのスキルアップ講座 県との共催：(地域の人づくり講座)	3年計画で、地域で活動できる防災士リーダーを育成する。
	健康寿命のばし隊養成講座	地域の健康づくり活動のリーダーを養成する。
	「親の学び」進行役養成講座	くまもと「親の学び」プログラムを活用した進行役を養成する。
宇土市	ボランティア養成講座	地域学校協働活動推進事業のボランティアを養成する。(ペットボトル風車づくり、園芸技術に関する講話と実技、読み聞かせに関する講話と実技を実施。)
宇城市	わがまちを元気にしたい大集合!! ～元気な「まちづくり」をスタート!～ 県との共催：(地域の人づくり講座)	宇城市の未来会議や災害に強いまちづくり等について学ぶ。
阿蘇市	教養講座	社会一般の常識や教養を学ぶ。
玉東町	玉東フットパス開発講座	ガイド養成のための教養講座。
長洲町	伝えたいことをカタチにする ～公民館で講師デビュー!～ 県との共催：(地域の人づくり講座)	自主講座を開講するための知識と技術を習得し、成果発表の場として公民館フェスタで講師を体験。
御船町	カルチャースクール	県内各地から講師を呼び、年に18回程度の講座を7つ開講。
津奈木	公民館が元気になると まちが元気になる ～未来につながる 津奈木のまちづくり～ 県との共催：(地域の人づくり講座)	公民館を通じた人材育成及び地域づくりを学ぶ。
五木村	竹細工教室	住民同士の連携を継続する目的で実施。
中央公民館	コミュニケーションスキルアップ講座	地域のリーダーを育成する。
五福公民館	LINE活用講座	熊本市の防災LINEへの登録等、地域の自治会の役員等を対象に実施。
西部公民館	読み聞かせボランティア養成講座	読み聞かせボランティアの育成を図る講座。
南部公民館	傾聴ボランティア育成講座	NPO法人傾聴ネットワークキーステーションが講師を務め、全7回で開催。
東部公民館	みんなで楽しく孫育て講座	ワークショップを通して、交流を図り、日常の活動へと導く講座。
龍田公民館	心によりそう傾聴講座	「傾聴」の具体的な手法を学び、様々な場での活用を促す。

託麻公民館	つながるcafé in 託麻公民館	みなし仮設をはじめ、地域の誰もが参加できる定期的な集いの場。
	傾聴入門講座	「傾聴」のコツを学び、生活に生かす。
	初心者のための気軽に始める手話教室	手話の基礎を学ぶ。
	認知症サポーター養成講座	認知症を正しく理解し、支援に結びつける。
	避難所運営ゲーム	避難所で起こりうる状況をイメージし、適切な対応をゲーム形式で学ぶ。
幸田公民館	Fun English lesson	話せる英語を目指し、南アフリカ共和国出身の講師から英会話を学ぶ。
	手話を覚えよう	手話を日常や仕事の場に生かす。
秋津公民館	地域のつながりを身近なところに	自治会長、公民館長、地域包括ケアセンター等の実践発表等から、地域のつながりづくりについて学ぶ。
清水公民館	ナイストライ マナーアップ講座	2学期に行うナイストライに向けて、礼やあいさつ等の基本的な礼儀を正しく身に付ける。
大江公民館	おでかけ公民館	公民館の自主講座生による、小学生への学習支援。
花園公民館	花園ダイエット部	1回目（健康相談、身体が栄養を取り込む仕組みの学習）、2回目（動くために必要な筋肉を作る方法等の学習）、3回目（自主的に食をコントロールするための学習）を通して、公民館を核に健康に関心を持ったコミュニティの育成を図る。
北部公民館	ほくぶキッズ遊学塾	異年齢集団による様々な体験活動を通して、地域づくりの人材育成を図る。
飽田公民館	ベビー&マミービクス	生後2ヶ月から4歳未満児と保護者を対象。軽度の体操や運動等を通して、親子のコミュニケーション、保護者同士の情報交換、子ども同士の交流を図る。
河内公民館	公民館サポーター	公民館でのボランティア活動を通じた、地域の人材育成と仲間づくり。
天明公民館	ちりめん手芸	地元の伝統手芸サークルによるちりめん手芸を通じた人材育成と仲間づくり。
	おはなし会	ボランティアグループおはなし会による人材育成と仲間づくり。
	自治会向けLINE講座	災害時の緊急連絡や災害時の自治会連絡網としてLINEを活用する。
富合公民館	おはなしボランティアとみing	読み聞かせのスキルアップや仲間づくり。
城南公民館	心に寄り添う傾聴講座	家族や地域での人間関係、仮設住宅、みなし仮設等の心のケアに生かす。
植木公民館	植木の史跡・名所の歴史を学べ	植木地域にある史跡・歴史等を学び、地域ボランティアガイドの育成を図る。

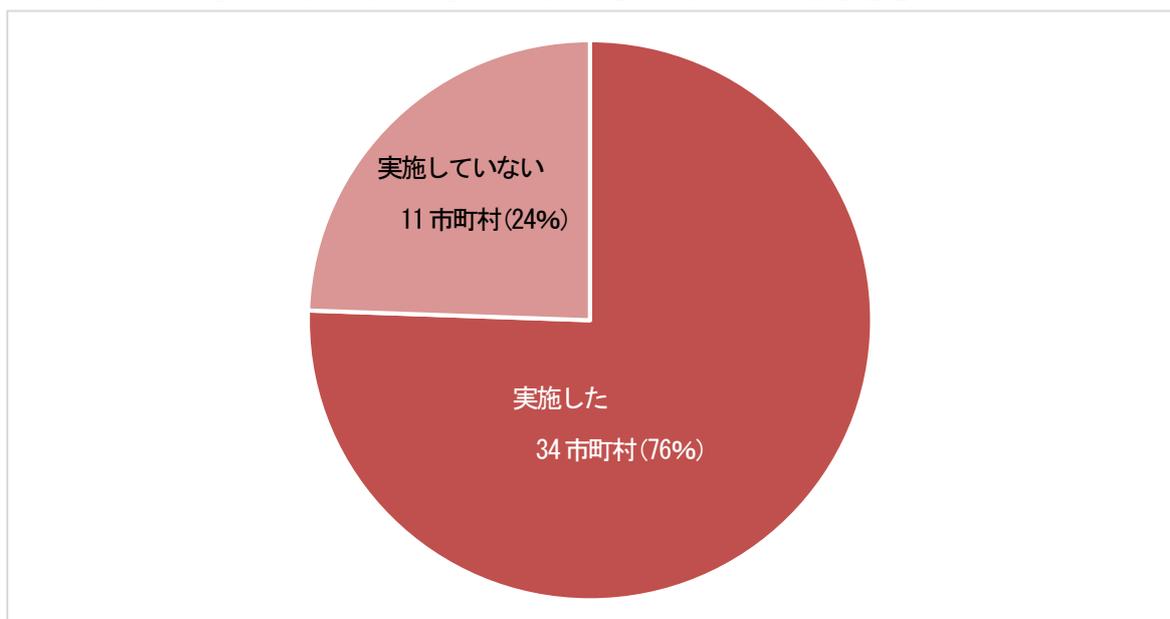
回答状況から、地域で活躍する人材育成を視野に入れた講座を実施している市町村及び公民館が数多く見られた。

問4 今後、住民への提供が必要だと考えられる学習についてご記入ください。[自由記述]



この問について回答があった市町村は、20市町村（44%）であった。「回答があった市町村の学習内容を領域ごとにまとめたところ、「地域の連帯やまちづくり」「ボランティア活動」「個人のキャリア開発（地域の人材育成）」「人権」等が多かった。

問5 本年度、子供を対象とした事業を何か実施しましたか。（予定も含む）



子供を対象とした事業を実施した市町村は、34市町村（76%）であった。

次の表に示すのは、子供を対象とした事業の具体例である。(回答があった市町村及び熊本市公民館のみを示す。)

市町村等	事業名(講座名)	内容
八代市	はじめてのえいご	八代市勤務のALTを講師として、ゲーム等を通して楽しく基礎知識を学習する。
	自然観察	自然観察指導員とともに小川がある自然遊歩道を歩きながら、自然観察を行う。
	お天気講座	天気の不思議について実験等を行う。
	おやこパン	パン作りを通して、親子の絆を深める。
	和菓子作り	県の食のマイスターを講師に迎え、日本の文化、四季を感じながら和菓子作りを体験する。
	チョコのお菓子作り	自分で調理するきっかけづくりとする。
人吉市	校区公民館子ども講座	体操・将棋・囲碁・ダンス・スポーツ・折り紙・自然体験等を行う講座。
	人吉市花まる教室	
	草木山川学校	
荒尾市	英語教室	市で任用している国際交流員を講師とし、小学1年生～3年生を対象とした英会話教室。
	星空観測	星座早見盤を用いて季節の星座の説明を行ったり、天体望遠鏡にて星の観測を行ったりする。
	紙飛行機教室	飛行機が飛ぶ原理を学んだり、紙飛行機作りを体験したりする。
水俣市	みなまたヒューマンライツ・セミナー(中学生コース)	人権に関するセミナー(全5回) ①開講式・水俣からのメッセージづくり、②部落問題(南阿蘇村)、③ハンセン病回復者等の人権(菊池恵楓園)、④水俣病問題(水俣市)⑤報告会・閉講式 ②、③、④を南阿蘇村と合同で交流学习を実施。
	夏休み子ども教室	やさしいお金のはなし～お金の上手な使い方～
玉名市	子どもチャレンジ学習教室	理科実験や工作等の学校では体験できない楽しい学習や遊びを現職の学校の先生が講師となって教える。
天草市	ありすボランティア事業	小学5年生～高校3年生までの年齢で、1年間に5回以上活動ができる人を募集し、受講後、「おはなし会」での読み聞かせや館内作業(書架整理、POP書き、フィルムコートかけ、本の修理など)を行う。
	青少年育成講座	小中学生を対象とした職業講話。
	親子ふれあい講座	小学生とその保護者を対象とした科学講座。
菊池市	キッズチャレンジクラブ	地域の宝物を見つける体験活動の講座。
	熊本高専から学ぶプログラミング講座	熊本高等専門学校と連携したプログラミング講座。

	やってみよう！親子囲碁入門	親子で囲碁の基本を学ぶ講座。
	新聞紙で作る動物園	地域おこし協力隊と連携した夏休み講座。
	みんなでニュースポーツ	市スポーツ推進委員の協力のもと、ディスゲッターとドッジビーを体験する夏休み講座。
	親子で体験！手作りウイナー教室	地元企業と連携してウイナー作りを体験する夏休み講座。
	こども囲碁・将棋大会	市内小中学生を対象とした囲碁・将棋の大会。
	ほっこり親子シリーズ	親子でDIYやリース作り、パン作りを体験する講座。
	昔はこんなもの作ってたんだ講座	門松を作る体験講座。
	子ども議会	子ども議員（中学生）がまちづくりや市政に関する質問や提案を行う。
	青少年育成キャンプ	野外活動や食事づくりなどを行うキャンプ。
	わんぱくひろば	登山。
宇土市	子供地域活動推進事業	青空教室を7地区公民館、児童通学合宿を3地区で実施。
上天草市	ハロウィーン・パーティー	外国の伝統的な行事に参加・体験することにより、異文化に親しみ、豊かな国際感覚を養うことを目的とし開催。ゲーム大会や仮装大会等を実施。
宇城市	子どもの楽校	地域全体で子どもたちの健やかな成長を見守り、地域の絆を強めることを目的として、そうめん流し、クラフトづくり、DAYキャンプ、アウトドアクッキング、ウォークラリーを実施。
合志市	子ども歴史科学体験教室	年間10回開催。郷土の文化財を周知し、市民に学習の場を提供する。「勾玉作り」「科学体験教室」「恐竜博物館見学」「自然観察会」「土器焼き」等を実施。
美里町	子ども切り絵	子ども向けの簡単な切り絵。
	絵本の会	絵本の読み聞かせ。
	野外防災体験	マッチの使い方、焚き火、飯盒炊飯等の体験活動を実施。
玉東町	夏休み子ども料理教室	地域の方の協力を得ながら児童へ料理を教える食育講座。
和水町	和水町童話発表会	子供たちが童話に親しむことを目的に町内の各小学校より選出された代表者（1～6年生）が童話発表を行う。
大津町	チャレンジキャンプ	3泊4日で自然体験や野外炊飯を行う。
菊陽町	ジュニアリーダー	小中学生のリーダー育成を図る。
	サマーキャンプ	2泊3日の野外活動体験を実施。
小国町	木育講座	町の特産である小国杉を使って活動することにより、子どもたちが地域に親しみ、誇りを持つことを目指す。
産山村	うぶやま夢塾	児童・生徒への学習機会を提供し、地域の児童・生徒の学力及び地域の教育力の向上を図る。
南阿蘇村	放課後子ども教室	放課後の空き教室を利用して、地域ボランティアの人たちと交流を図ることを目的とした事業。

西原村	河の子塾、風の子塾、萌の子塾、山の子塾	自然体験活動（観察、遊び、登山、キャンプ等）。
御船町	子育て遊園地	町の子育て連絡協議会と教育委員会の共催。親子で楽しむ内容（体験コーナー、食バザー、手づくりおもちゃの販売、ミニコンサート、ダンスのワークショップ等）を実施。
嘉島町	絵手紙体験教室	小学生を対象に、絵手紙体験教室を実施。
	ITプログラミング教室	小学校5年生全員を対象に、ITプログラミング教室を実施。
甲佐町	子ども講座	親子でプログラミング体験、ペットボトルを使った工作等を実施。
山都町	清和文楽人形芝居小学生教室	清和小学校4年生以上を対象に清和文楽人形の教室を開催。
	茶道教室	小中学生を対象に夏休み期間の5日間、茶道教室を開催。
	中学生・高校生 人権講演会	中学生、高校生を対象に人権講演会を開催。
氷川町	キッズプログラミング講座	パソコン講座の一角を夏休みのプログラミング講座として開催（小学生40名）。ブラウザ上でできる簡易プログラミングソフトを使った教室。
芦北町	子ども体験学習講座	町内2回、町外1回体験学習を実施。バイク工場見学、ウイナー作り体験、美術館見学、ハーバリウム体験、料理教室、ホットホビー体験、海浜総合公園体験等。
津奈木町	つなぎあそびの学校	町内の小学生を対象に様々な体験活動の環境を提供。
錦町	ふれあい講座	町内小学生児童及び保護者を対象に体験活動や町歴史等の学習を親子で行う。
多良木町	伝統芸能継承事業	伝統的遊びの継承。
湯前町	英会話教室	A L Tによる小学生向けの英会話教室。
水上村	奉仕・体験学習 「ふるさと塾」	奉仕、体験活動を通して、健全な青少年の育成を図る。水上村の人づくりの一環として実施。
	くまっ子リーダー体験塾	地域の子どもの健全な育成を図るために、球磨郡9町村と連携・協力し、交流活動・体験学習活動を実施。
相良村	相良いけばな教室	生け花教室
五木村	のびのび子供教室	小学生を対象に夏休み期間中、工作教室、料理教室、川遊び体験（カヤック）天草市との交流事業等を実施。
中央公民館	子ども民謡教室	日本の伝統の一つである民謡のすばらしさに触れ、子どもの豊かな人間性を涵養することを目的に開催。
五福公民館	こども茶道教室	年間16回、小学生、中学生を対象に実施
	こども民謡教室	年間11回、幼児、小学生、中学生を対象に実施。
	サタデーワンダーホール	月1回土曜日、年7回実施。熊大メイクフレンズの学生が企画・運営を行う事業。
	世代間交流事業	五福小児童と地域の方々が交流を図りながら清掃活動、祝菓子

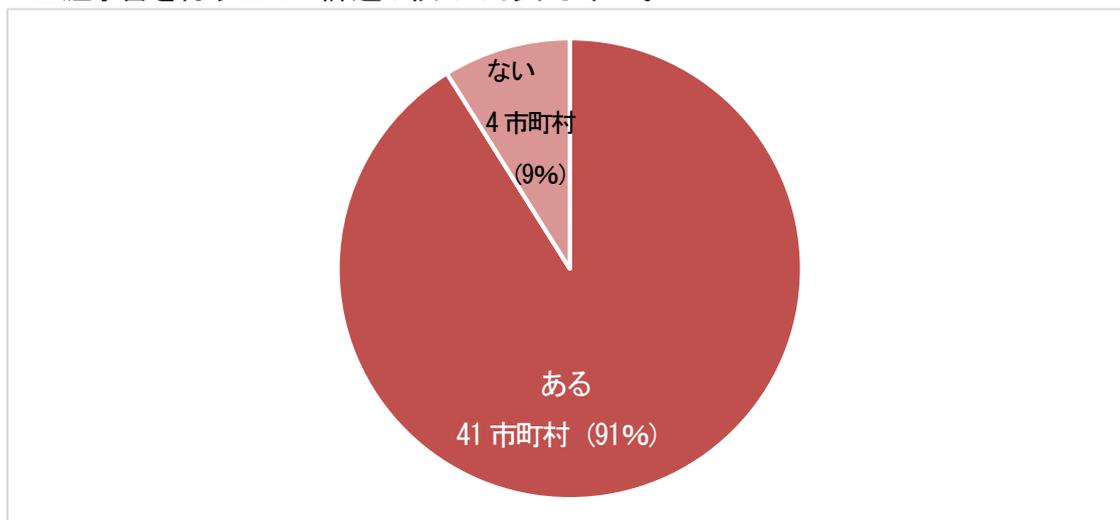
		配り、ペタンク等を行う事業。
西部公民館	和菓子作り、凧作り、防災キャンプ、スポーツトレーニング等	地域人材の活用を図り、菓子作り、凧作り、避難所体験を通じた防災学習等を実施。
南部公民館	南区子どもチャレンジ公民館	南区の4・5・6年生対象。子どもたちが企画した講座を社教主事と共に一般参加者へ呼びかけ、運営を経験する取組。
東部公民館	キッズクッキング	夏休み中にピザを自分で作って食べることができるようにするためのクッキング講座。
龍田公民館	子どもフラダンス	フラダンスの練習と発表。
	子どもお琴	お琴の演奏と発表。
	子ども茶道	茶道の体験。
託麻公民館	東区ブロック子どもチャレンジ公民館	子どもの企画者（プランナー）による子ども向けの講座。
	おはなしの部屋	読み聞かせボランティアグループ「たくま読書とおはなしの会」による楽しいお話し会。
	ドナルド先生と親子運動遊び	子どもの心身の健康を図るために親子で運動をしたり遊んだりする。
	親子トランポリン教室 トランポリン教室	子どもの心身の健康を図るためにトランポリンで運動する。
	親子で和菓子作り	親子で和菓子を作る。
	とび箱教室	とび箱が跳べるように練習する。
	親子パン作り	親子でパンを作る。
	英語であそぼう	あそびを通して英語を学ぶ。
	小学生のための生け花教室	小学生対象の生け花入門編講座。
	はじめての将棋	小学1～3年生対象の将棋入門講座。
	逆上がり教室	逆上がりができるように練習する。
	夏休み短期子ども料理教室	食育の学習と調理実習。
	親子プログラミング教室、 キッズプログラミング体験	小学校のプログラミング教育を親子で体験する。
	「はかる」の世界を学ぼう！	計量について、専門家から学ぶ。
	見て！ふれよう！大昔の託麻	託麻公民館の遺跡発掘現場を見学しながら弥生時代の地域の様子等について学ぶ。
	託麻 DE 科学工作！	科学工作で楽しみながら科学の不思議や仕組みを学ぶ。
	子ども書きぞめ会	自主講座講師と講座生による書初め会。
親子で作る米粉ピッツア	県産米粉に小麦粉を加えたピッツアを親子で作る。	
ショコラケーキ作り	親子でショコラケーキを作る。	
幸田公民館	キッズイングリッシュ	英語を学習する。
	子ども百人一首教室	百人一首を学習する。
	トランポリン教室	トランポリンの基礎的な跳び方を練習する。

	手づくりはがき教室	牛乳パックを再生した紙で手づくりはがきを作る。
秋津公民館	プログラミング教室、小学生書き方教室、初めての将棋	学びの基礎・基本になることや、学校では十分できないような体験活動を実施。
	熊本大学メイクフレンズとの共同企画	小学2年生対象…買い物、料理教室（2回）、その他の学年対象…創作活動メインとした講座を（2回）実施。
清水公民館	子ども茶道	茶道を通して、和室での礼儀や作法を身に付ける。
大江公民館	中央区子どもチャレンジ公民館	小学4年生から6年生対象。熊本大学教育学部の学生とともにイベントの企画や運営を行うリーダーを育成する。
花園公民館	子ども将棋	第3土曜日の午前中に実施。地域住民がボランティアで講師を務める。
北部公民館	プログラミング講座	基本的なプログラミングづくり。
飽田公民館	子ども卓球講座	小学3年生から中学生までの児童生徒を対象に、10回シリーズで卓球講座を実施。
河内公民館	ジュニアダンス	小学生が、軽い運動を行う。
	キッズトランポリン	
	地域の子育てサークルとの共催（親子のふれあい活動）	幼児と保護者のふれあいを図る。
天明公民館	キッズスポーツ、キッズ英語、キッズアート キッズ将棋、キッズコーラス、キッズそろばん等	スキルを身に付けるために2回～6回程のシリーズで行う。
富合公民館	キッズたいそう	器械運動を中心に、基本的な体の動かし方について学習する。
城南公民館	城南げんきモンまつり	城南地域の仮設や災害公営住宅棟で生活している子どもたちを中心に呼びかけを行う。ものづくり、ニュースポーツ、木のおもちゃ、トランポリン、スラックラインなどの体験型イベントを実施。
植木公民館	子ども体操	鉄棒・マット・跳び箱等を段階に応じて学ぶ体操教室。

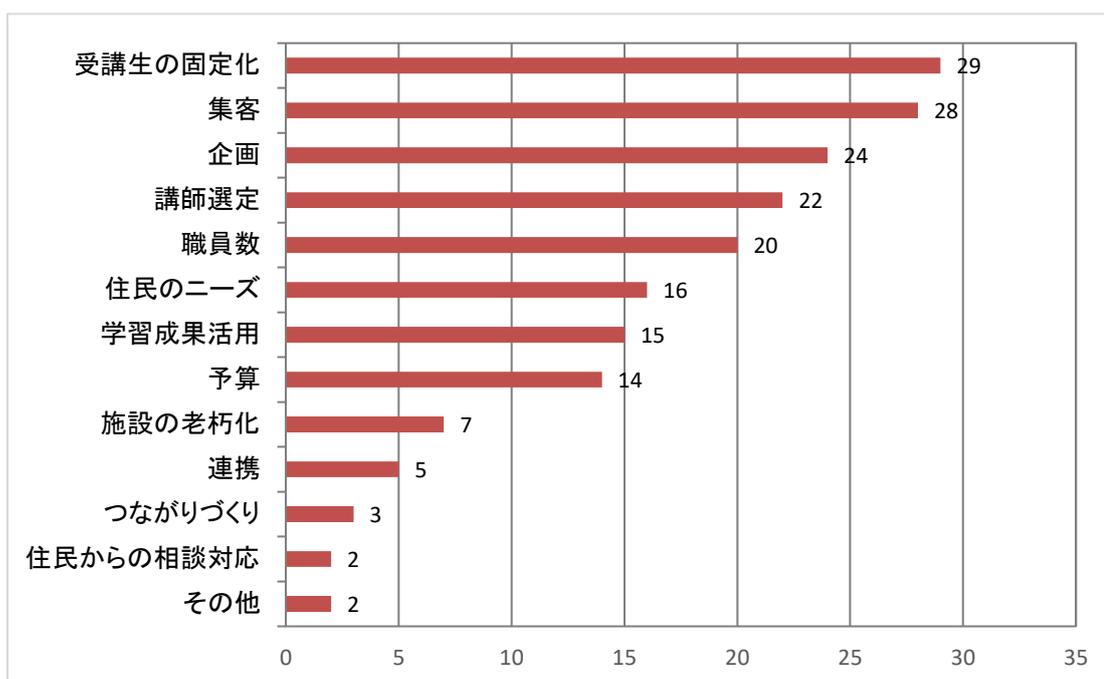
それぞれの地域にある資源や人材を活用しながら講座を企画していた。また、小学校の教育課程で次年度から開始となるプログラミング学習を取り入れた講座を実施している市町村が多く見受けられた。この他、子ども会議や公民館まつり等、地域と連携したものが行われていた。

講座の形態は、体験活動が多く、五感を使いながら世代間の交流を図ったり、親子のふれあいを深めたりしている内容が多く、子供たちの豊かな成長を地域全体で見守っている様子が窺えた。

問6 生涯学習を行う上での課題や悩みはありますか。



生涯学習を行う上での課題や悩みが「ある」と回答した市町村は、41市町村（91%）であった。



生涯学習を行う上で、「受講生の固定化」や「集客」について課題や悩み等を抱えている市町村が多いことがわかった。住民のニーズを把握し新たな講座企画にチャレンジするなど、新しい受講生の獲得につなげていく必要がある。

### 第3章 「地域の人づくり講座」1年次経過報告

#### 【事例1】公民館を中心に活動する人材を育成することを目的とした講座（長洲町）

##### 1 1年次の計画

地域課題	
○住民の社会参加が不足している ○人材バンク（総務課作成）があるが、機能していない。	



目標	
地域で講師として活動できる人材を発掘、養成し、中央公民館の自主企画講座及び自治公民館での活動を活性化させる。	



講座企画			
テーマ	伝えたいことをカタチにする～公民館で講師デビュー!?!～		
方法	○人材バンク登録者を中心に募集をかける。 ○夜間講座として実施する。		
回数	演題・内容	講師	
1	演題	楽しい参加体験型講座の作り方 ～活動が満足度アップにつながる～	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
	内容	参加体験型講座の基本的な構成、進め方等を学ぶ。	
2	演題	行ってみたくなる講座の見せ方 ～企画から広報までのノウハウ～	株式会社 談 プランナー 甲斐 由貴
	内容	ニーズのつかみ、自分の趣味や特技と絡めて企画、広報までのノウハウを学ぶ。	
3	演題	想いが伝わる講師のマナー ～意外と見られている講師の立ち居振る舞い～	コミュニケーショントレーニングセンター 代表 林田 美恵子
	内容	講師としての基本的なスキル（非言語の部分）を学ぶ。	
4	演題	想いが伝わる話し方 ～分かりやすく、心地よい発声スキル～	コミュニケーショントレーニングセンター 代表 林田 美恵子
	内容	講師としての基本的なスキル（言語の部分）を学ぶ。	
公民館フェスタ			
5	演題	講師デビューに向けて ～公民館まつりの振り返り～	内閣府地域活性化伝道師 三角 幸三
	内容	公民館祭りを振り返り、成果と課題を整理し、今後の講師としての活動に生かす。	



1年次の成果と課題を踏まえ、2年時の計画を立て、地域活動の定着を目指す。
--------------------------------------

## 2 講座の実際

【第1回】参加体験型の講座を設計するために、ゲーム化していくことの大切さを学んだ。

【第2回】自分の強みと、受講生のニーズのマッチングを探ることの大切さを学んだ。

【第3回】メラビアンの法則（視覚55%、聴覚38%、言語7%）から、表情、身だしなみ、立ち居振る舞いの大切さを学んだ。

【第4回】発声のメカニズムを学び、発声練習を行った。最後は、簡単な自己紹介を行った。

【第5回】公民館フェスタの成果とともに、改善点を共有した。



【第1回】  
ゲームを楽しむ受講生



【第3回】  
鏡で自分の表情を確かめる受講生



【第4回】  
自己紹介をする受講生

## 3 活動の実際（公民館フェスタ）

第4回と第5回の講座の間で、公民館フェスタを実施した。受講生の得意を生かし「ハーバリウム」「折り紙」「ペーパークイリング」「パステルアート」「編み物」「薬膳カウンセリング」「キーホルダーづくり」の7つのブースと「健康」「防災食」「地学」「体操」の4つの教室を実施した。子供から大人まで多くの参加があった。



ハーバリウムの様子



編み物の様子



折り紙の様子

## 4 1年目の成果と課題

### 【成果】

受講生が自分の得意を生かし、公民館フェスタで参加者に教えることができた。

### 【課題】

ブースや教室によって、参加人数に差があった。ニーズに合った内容に練り上げていく必要がある。また、公民館フェスタの周知や準備を余裕もってできるような日程にする必要がある。

## 5 2年目以降の展開

学び直しとして、フォローアップ研修や先輩受講生の体験談などを実施し、公民館フェスタを継続していく。受講生同士の交流を図り、活動の場を広げていく。

【事例2】地域防災のリーダーとして活動する人材を育成することを目的とした講座（菊池市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○市民全体の防災に関する意識の低下。 ○防災士の資格を持っているが、各地域で防災リーダーとして、活動に繋がっていない。



目 標
防災士としての学び直しと、活動に向け必要なスキルアップを図る。



講 座 企 画			
テーマ	<b>防災士のためのスキルアップ講座</b>		
方法	○菊池市内の防災士取得者に募集をかける。 ○第2回目は、防災士の専門性を高めるために、ニーズに応じた講座を事前 に選択し、受講する。		
回数	演題・内容	講師	
1	演題	<b>今、必要な地域防災のあり方</b>	
	内容	ワークショップを通して防災士としての悩みや地域防災の課題などについて把握する。	熊本大学大学院 准教授 竹内 裕希子
2	演題	<b>実践型講座でスキルアップ</b>	
	内容	3つの中から、1つを選択し、ファシリテーターとしての専門性を高める。	
	①災害対応ゲーム クロスロード	②避難所運営ゲーム HUG（ハグ）	③災害図上訓練ゲーム DIG（ディグ）
	災害時の難しい判断が迫られる状況を体験することで、災害を自らの問題として考える。 【講師】 くまもとクロスロード研究会 代表 徳永 伸介	避難所で起こる様々な出来事を疑似体験し、判断しながら、スムーズな入所、適切な運営を考える。 【講師】 熊本大学大学院 准教授 竹内 裕希子	地図を囲み、皆で地域の情報を共有し、論議しながら、防災マップをつくり、災害対策を考える。 【講師】 菊池市総務部防災交通課 危機管理監 野村 浩司
3	演題	<b>求められる防災士としての活動</b>	
	内容	第1回・2回の内容を踏まえて、次年度の計画を立案する。	
熊本大学大学院 准教授 竹内 裕希子			



1年次の成果と課題を踏まえ、2年時の計画を立て、地域活動の定着を目指す。
--------------------------------------

## 2 講座の実際

【第1回】災害のリスクに対する備え、防災士としての専門性などについて学び、チームで対応することの大切さについて考えることができた。

### 【第2回】①災害対応ゲーム クロスロード

熊本地震当時を振り返りながらクロスロードの体験及びファシリテーターとして留意すべき点などを学んだ。また、ファシリテーター役も体験した。

### ②避難所運営ゲーム HUG

避難所の開設から運営までに必要なこと、配慮する点等に加え、ファシリテーターとしての留意すべき点などを学んだ。

### ③災害時頭上ゲーム DIG

ハザードマップの作成や図上訓練を通して、災害時を想定した実際の対応等について考えていくことができた。

【第3回】第1回、2回の学習を振り返り、地域のネットワークづくりの重要性などについて学び、次年度以降に向けた受講生の学習意欲が高まった。



【第1回】  
地域防災支援プログラムを学ぶ受講生



【第2回】①クロスロード  
ファシリテーターとしての役割を学ぶ受講生



【第2回】②HUG  
避難所運営の実際について学ぶ受講生



【第2回】②DIG  
DIGの特徴について学ぶ受講生



【第2回】③DIG  
ハザードマップの作成を行う受講生



【第3回】  
これまでの学習を振り返る受講生

## 3 1年目の成果と課題

### 【成果】

受講生のニーズに応じた学びの場を提供したことにより防災士としての専門性を高め、ファシリテーターとしてのスキルを学習することができた。また、講座のアンケートからも次年度以降への意欲継続が感じられた。

### 【課題】

学習活動を通して受講生同士のコミュニケーションは深まったが、今後も防災士のネットワークを広げていく必要がある。

## 4 2年目以降の展開

スキルアップ講座を今後も継続して行い、防災士同士のつながりを強化しながら、自主企画講座企画や自主防災組織の活動計画の立案を行い、実施につなげる。

【事例3】地域リーダーの育成を目的とした講座（宇城市）

1 1年次の計画

地 域 課 題
公民館5館が防災拠点センターになると、「集い・学び・つながる」という公民館的機能が大きく低下する可能性がある。



目 標
公民館祭りの実施に向けた取組を通して、まちづくりに関わる人材育成を行い、地域活動が継続するような仕組みを整える。



講 座 企 画		
テーマ	<b>わがまちを元気にしたい人 大集合！！</b> ～元気な「まちづくり」をスタート！～	
方法	○5回の夜間講座を実施し、地域のリーダーに求められる事柄を講演やワークショップを通して学ぶ。 ○5回の講座後、公民館祭りの開催に向けて、地域リーダーを中心に準備を行う。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	<b>ウキウキ宇城市の未来会議</b> ～my総合計画をつくろう～
	内容	宇城市をより良くするための意見を出し合い、参加者同士の交流を図る。
2	演題	<b>大災害！その時あなたならどうする？</b> ～災害に強いまちづくりとは…～
	内容	熊本県版クロスロードの体験を通して、防災・減災の視点からまちづくりを考える。
3	演題	<b>話し合いが楽しくなる！！</b> ～思いを引き出す司会術（ファシリテーションの手法）～
	内容	住民同士の話し合いを円滑に進めることができファシリテーションスキルについて学ぶ。
4	演題	<b>あなたのまちの“強み”は？“弱み”は？</b> ～地域の現状をとらえ直す～
	内容	地域の強みと弱みを整理し、公民館活動へとつなげていく。
5	演題	<b>公民館祭りで「あなたのまち」を活性化！</b> ～あれもできる！これもできる！！～
	内容	公民館祭りに向けて、プログラムを考える。



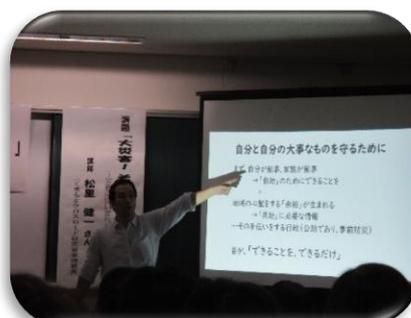
1年次の成果と課題を踏まえ、2年時の計画を立て、地域活動の定着を目指す。
--------------------------------------

## 2 講座の実際

- 【第1回】講師からまちづくりの先進事例を紹介していただき、今後、地域の資源を生かしながら、どのようにまちづくりを進めていきたいのかを、参加者一人一人が考えた。
- 【第2回】熊本地震の経験をもとに考えられた熊本版クロスロードの体験を通して、災害時や災害後に自分はどのような行動をとるのかを慎重に考えたり、他の人の意見を聞いたりして、地域の防災活動の在り方について学んだ。
- 【第3回】話し合いに参加した人が、「話しやすくなる・居心地がよくなる・対話を生みやすくなる」ためのファシリテーターの役割や技法を具体的に学んだ。
- 【第4回】宇城市の未来について「あんなまちにしたい、これもできる」などを妄想した。グループで話し合ったり、全体で意見を共有したりして、多くのアイデアを出し合った。
- 【第5回】第4回で出たアイデアをさらに実現可能な取組とするために、グループごとに集約し、参加者全員で意見を共有した。出された意見ごとに受講者は講師から評価を受け、実践につなげていこうという意識を持った。



【第1回】  
まちのよさを伝え合う受講生



【第2回】  
判断した理由を考える受講生



【第3回】  
問いかけて思いを引き出す受講生

## 3 1年目の成果と課題

### 【成果】

講座に参加した受講者を中心に、公民館祭りの準備や地元でイベントを開催するなど、地域の活性化につながる自主的な活動が見受けられた。

### 【課題】

1年目の取組であったことから、関係機関との連携が十分ではなかった。継続的な活動にするためには、地域づくりの団体や若い世代が参画しやすい方法を考える必要がある。



【第4回】  
妄想した意見を出し合う受講生

## 4 2年目以降の展開

プログラムの内容をさらによりよいものに改善し、新たな市の施設である防災拠点センターにおいて、公民館祭り（仮名）を開催する。公民館祭りを通して、住民同士や関係機関相互のつながりを深め、市の活性化を目指していく。

【事例4】自治公民館の活性化を目的とした講座（津奈木町）

1 1年次の計画

地 域 課 題
○地域の自治公民館の活動が、地域によって温度差がある。 ○活動が少なく、地域住民の参加も少ない地域がある。



目 標
地域で先頭に立ち活動できる人材を育成し、地域が求める公民館活動が継続できる仕組みをつくる。



講 座 企 画		
テーマ	公民館が元気になると まちが元気になる ～未来につながる 津奈木のまちづくり～	
方法	○事前に区長会長へ説明し、理解を得る。 ○第1講を区長会に合わせて実施し、区長の理解を得る。 ○夜間講座として実施する。	
回数	演題・内容	講師
1	演題	全国のまちづくりに学ぶ① ～ワクワク公民館活動に向けて～
	内容	まちづくりにおける全国の事例研究を通して、公民館活動の必要性を知る。（7月の区長会で実施）
2	演題	全国のまちづくりに学ぶ② ～ワクワク公民館活動に向けて～
	内容	まちづくりにおける全国の事例研究を通して、公民館活動の必要性を知る。
3	演題	あなたのまちの長所は？短所は？ ～見えていなかったところが見えてくる～
	内容	津奈木町の長所と短所を整理し、公民館活動への足掛かりとする。
4	演題	地域の課題を解決するには… ～見方を変えれば短所が長所になる～
	内容	地域の課題を解消するための、持続可能な活動について考える。
5	演題	地域の強みを生かすには… ～ぐんぐん伸びる、あなたのまちの長所～
	内容	地域の強みを生かした、持続可能な活動について考える。
		内閣府地域活性化伝道師  三角 幸三



1年次の成果と課題を踏まえ、2年時の計画を立て、地域活動の定着を目指す。
--------------------------------------

## 2 講座の実際

### 第1回のみ区長会で実施

【第1回】パンダとハトを新メンバーとして加えた「新桃太郎体制」を例に挙げ、地域づくりに必要な人的な要素の説明があった。「まとめ役で企画者が桃太郎」「知恵者が猿」「誠実で行動力があるのが犬」「好奇心旺盛で新しい発見があるのがキジ」「よそ者の視点で新しい風を入れるのがパンダ」「情報収集し広報するのがハト」である。

### 第2回～第5回は町民全体を対象に実施

【第2回】特産物、環境、福祉、教育、観光、文化、イベントなど様々な分野のまちづくりの事例紹介があった。

【第3回】津奈木町の長所と短所をグループごとに出し合い、発表した。自然や人、特産物などの視点から様々な意見が出された。

【第4回】津奈木町未来妄想会議を行った。町長、議員、移住者、観光業者、役場職員、温泉経営者、美術館の学芸員、商工会長など様々な立場になりきり、自由な発想で意見を出し合った。

【第5回】未来妄想会議から未来構想会議になるためには、実践可能な企画を考え、行動計画を立てることの大切さを学んだ。講師から津奈木町の強みを生かした多くの実践構想が示された。



【第1回】  
まちづくりの必要性を聞く区長



【第3回】  
町の長所と短所出し合う受講生



【第4回】  
未来妄想会議で発表する受講生

## 3 1年目の成果と課題

### 【成果】

町の強みを洗い出し、地域活動への方向性を見出すことができた。また、地域活動に積極的にかかわる人材を見つけることができた。

### 【課題】

「何をするのか」を考える1年目であったため、人材育成のために必要な知識やスキルを身に付ける講座を実施することができなかった。回を重ねるごとに参加人数が減り、モチベーションを継続することの難しさを感じた。

## 4 2年目以降の展開

1年目は町全体の長所や短所を考えた。2年目は地域を限定し、モデル地域として講座を実施していく。年度当初にモデル地域を実際に歩き、実際に実践可能なことを見つけ出す。年度の後半で、実践のために必要な知識やスキルを身に付けるための講座を実施し、年度末に具体的な実践を行う。

第4章 地域課題解決に向けた講座企画例（くまもと県民カレッジ主催講座）

【事例1】消費者コース

1 ねらい

社会的な課題を自分事に置き換え、自分のライフスタイルを見直すことで、より良い社会づくりに貢献することにつながる。



【第5回 講座の様子】

2 概要

テーマ		「エシカル」な「消費」 ～何をどう買うのか、それが問題だ～	
回数		演題・内容	講師
1	演題	「エシカル」な「消費」とは… ～ライフスタイルを選ぶ～	元尚絅大学短期大学部 教授 川口 恵子
	内容	社会や環境に配慮するエシカルな消費の基礎知識、考え方を学ぶ。	
2	演題	おいしさと、地元愛と ～地産地消の効果～	野菜ソムリエ上級プロ 女子栄養大学生涯学習 講師 持田 成子
	内容	地元野菜を題材として、エシカル消費の観点から地産地消の効果を学ぶ。	
3	演題	よいものを一つ一つ丁寧に手作り ～障がい者自立支援の効果～	県社会就労センター協議会 会長 松本 保孝
	内容	エシカルの観点から、消費を通じた障がい者支援の在り方を学ぶ。	
4	演題	あなたの消費が世界につながる ～フェアトレードとは～	一般社団法人熊本市 国際交流振興事業団
	内容	国際交流館での現地学習。フェアトレードの基礎、熊本市のフェアトレードへの取組みを学ぶ。	
5	演題	実践！選んで買って見た ～エシカルな消費の報告会～	元尚絅大学短期大学部 教授 川口 恵子
	内容	1～4講で学んだことを踏まえたエシカル消費の実践報告会と講評、これからの取組みについて考える。	

3 受講者の反応（アンケート結果から）

- ・エシカルの意味を知ることができた。今後の消費活動に生かしていきたいと思う。
- ・日常の消費について考えるよい機会となった。

4 講座の成果と課題

【成果】

- ・一般になじみの薄いエシカル消費について浸透を図ることができ、消費活動のもつ社会的影響への意識が高まった。

【課題】

- ・さらに数多く、幅広い層の受講を促すため、夜間開催等が必要である。



【第3回 講座の様子】

## 【事例2】キャリアアップコース

### 1 ねらい

退職後を見据えたキャリアアップについて学び、新しい活動を開始する第一歩とする。

### 2 概要



【第1回 講座の様子】

テーマ		わくわく人生100年時代 ～第2・第3の人生を楽しむ～	
回数		演題・内容	講師
1	演題	人生100年時代の心得 ～第2、第3の人生は当たり前～	NPO法人 RyuSun 理事長 仲村 竜一
	内容	リンダ・グラットン他著「LIFE SHIFT」を参考に、講師の職体験を交え、人生100年時代の心得を学ぶ。	
2	演題	「趣味をいかす」という選択肢 ～「好き」で「しごと」をつくる～	熊本県民カレッジ 受講生 國本 聡子
	内容	趣味の草木染めをしごとのひとつとしている講師から、好きなことを生かすコツや心構えを学ぶ。	
3	演題	「ボランティア」という選択肢 ～喜んでくださることが私の喜び～	あさぎり町ボランティア 観光ガイド 上杉 芳野
	内容	講師の長年のボランティア経験から、ボランティア活動に対する思い、取り組む姿勢を学ぶ。	
4	演題	「生涯現役」という選択肢 ～まだまだ働ける、まだまだ働きたい～	団体事務局長、熊本落 語長屋世話人代表 上田 博司
	内容	講師の体験をもとに、生涯現役を続けるタフなシニアに必要な条件を学ぶ。	
5	演題	さあ、何から始めよう ～今できること、今後すること～	NPO法人 RyuSun 理事長 仲村 竜一
	内容	1～4講で学んだことを踏まえ、後悔しない生き方、今後の一歩を踏み出す心構えを学ぶ。	

### 3 受講者の反応（アンケート結果から）

- ・明日からまず第一歩を踏み出したい。何をすべきかが見えてきた。
- ・ものごとが前向きに考えられるようになった。

### 4 講座の成果と課題

#### 【成果】

- ・これまでの講座にないテーマを取り扱ったが、受講生からの評価は高く、十分なニーズがあることを確認できた。



【第4回 講座の様子】

#### 【課題】

- ・キャリアアップを含め、多様化する人生設計をサポートする講座の継続が必要である。

【事例3】防災活動コース

1 ねらい

地域の防災活動に実践的に活用できる防災プログラムのファシリテーター養成を図る。

2 概要



【第2回 講座の様子】

テーマ		今から始める防災活動入門 ～防災の学習会にすぐ使える！～	
回数		演題・内容	講師
1	演題	今から始める防災活動入門 ～熊本地震の経験をいかす～	県危機管理防災課  熊本大学大学院 准教授 竹内裕希子
	内容	県の施策や防災活動に必要となる自助・共助の重要性について学ぶ。	
2	演題	実態に合わせてカスタマイズ ～地域の実態を把握し、分析する方法～	熊本大学大学院 准教授 竹内裕希子
	内容	地域に合った地区防災計画の作成に向け、地域状況の分析と課題の把握・抽出の方法について学ぶ。	
3	演題	計画・準備を怠らず ～学習会の運営時に必要なこと～	
	内容	先進事例を基に、住民だれもが実行可能な地区防災計画を作成するためのポイントを学び、作成する。	
4	演題	経験が力になる ～いざ実践（お試し）～	
	内容	熊本版クロスロードのワークショップを通して、災害発生時や災害発生後に、自分はどうのような行動をとるかを考える。	
5	演題	今後につなげる振り返り ～PDCA サイクルでよりよいやり方を～	
	内容	1～4 講での学びを振り返り、非常時の備えについて考え、日常生活に生かす第一歩とする。	

3 受講者の反応（アンケート結果から）

- ・講師の話や参加者の考えを聞くことで新たな発見ができ、防災活動について深く学ぶことができた。
- ・防災プログラムの体験活動を通して、自分の引き出しが増えた。

4 講座の成果と課題

【成果】

- ・参加者は、防災士有資格者や防災関係者が多く、各地区で防災活動を牽引していく上で、大切なことを学ぶ機会を提供できた。

【課題】

- ・防災活動の普及・啓発を進める防災士などのリーダーと、住民が求める防災活動のプログラムの開発及び常時の連携づくりに関するプログラムの充実が必要である。



【第4回 講座の様子】

【事例4】孫育てコース

1 ねらい

祖父母世代が子育て中の親世代の思いを知り、孫育てや地域での子育て術を学ぶ。

2 概要



【第1回 講座の様子】

テーマ	バアバ・ジジの孫育て ～孫との時間を楽しむ方法～	
回数	演題・内容	講師
1	演題	「孫育て」と「子育て」 ～時代を超えて変わらないものと変わるもの～
	内容	子育て、孫育ての関係性やこれからの祖父母の役割などについて学ぶ。
2	演題	ジジ・バアバは子育て最強サポーター ～「してほしい」ことと「してあげたい」こと～
	内容	子育ての最強サポーターとして、孫の発達段階に応じて何をすべきかなどを学ぶ。
3	演題	ジジ・バアバとパパ・ママの程よい距離 ～これまでとこれから～
	内容	祖父母と父母の関係性を保ちながら孫を育てる方法等について学ぶ。また、ワークショップを通して、受講生同士の情報交換などを行い、日頃の思いを共有する。

山東こども園  
園長 村上 千幸

NPO法人子育て談話室  
理事長 柴田 恒美

3 受講者の反応（アンケート結果から）

- ・自分本位の対応ではなく、孫や子の気持ちを受け入れることの大切さを学ぶことができた。
- ・いろいろな見方や考え方があることを知った。これから子育てでのサポート役として関わっていきたい。

4 講座の成果と課題

【成果】

- ・父母世代と調和を図りながら孫育てを行う方法や、孫へのよりよい接し方等について学ぶことができた。
- ・ワークショップを通して受講生同士が積極的に情報交換を行うことができた。

【課題】

- ・講座をきっかけに出会った受講生が、今後もつながりを深めることができるような学習プログラムの展開が必要である。



【第2回 講座の様子】



【第3回 講座の様子】

## 第5章 他県の学習成果活用を促す先進事例

### 【事例1】学習成果活用、地域リーダーの育成

#### 福岡県岡垣町中央公民館

#### 「若潮学級」と「成人講座ゆうま」



#### すぐに活用できる仕組み

#### ～ボランティア活動を生み出す公民館講座～

#### 講座・ボランティア活動は受講生の自主運営

##### 効果① <受講生>

ボランティア活動を通して、学習の成果を生かせるとともに、達成感が生まれ、生きがいづくりになる。

##### 効果② <子ども>

学校支援ボランティアや子ども健全育成講座を通して、受講生と子どもとの距離が近づき、受講生への感謝の心が育まれる。

##### 効果③ <地域>

地域活動に参画する人が増え同好会が立ち上がるなど、地域のつながりが広がる。

#### ■事業の目的

#### ～主催講座の目的は地域活動のリーダーとなる人材育成～

岡垣町の基本理念「住みたい・住み続けたい・みんなが輝く 元気なまち岡垣」を踏まえ、「学習機会の提供」「生活文化の振興」「社会貢献活動へ積極的に参加する人材育成」を目的に、「若潮学級」や「成人講座ゆうま」などの公民館主催講座を展開している。

「若潮学級」は、健康・医療、人権・福祉、芸術・

文化などの教養コース（午前中の講座）と歌唱、色鉛筆画、陶芸、かな書道初級の専門コース（午後の講座）から成り、9時30分から15時まで1日の講座が行われる。

「成人講座ゆうま」は、かな書道中級、リフォーム洋裁、男性料理、体操・ヨガスクワット、民謡の専門コースから成り、午前中に2時間程度の講座が行われる。さらに、「若潮学級」の受講生を対象として開催される教養講座を希望すれば自由に受講することもできる。

これら2種類の講座を通して、地域活動のリーダーとなる人材育成を目指している。

#### ～岡垣町～

- ・人口 31,655人
- ・世帯数 13,822世帯
- ・高齢化率 32.4%

（令和元年6月現在）

## ■事業の仕組み

### ～ボランティア活動を講座の中に位置づける～

地域活動のリーダーとなる人材の育成を目指し、「若潮学級」（基礎編）と「成人講座ゆうま」（発展編）の2段階構成の講座が仕組まれている。両講座は町内在住の20歳以上を対象とし、それぞれ年間16回程度の講座で構成されている。両講座の特徴的なこととして、受講申込書に「講座ごとに係を設け、講座運営に協力」「ボランティア活動に参加」「町民文化祭で学習成果を発表」するなどが記載され、受講の条件として社会貢献活動を行うことが含まれている。また、歌唱、陶芸、かな書道などの各専門コースには、班長・副班長（文化祭実行委員）・会計係・出席係の役割分担があり、専門コース毎に、自主的に講座会場の準備や片付け、講師との打合せ及び講座の司会、受講生への連絡、ボランティア活動の日程調整及び実施などを行っている。

## ■仕組みによる効果

### ～講座が育む仲間づくりとボランティア活動の広まり～

講座内容を高く評価する受講生は多く、特に評価が高い項目は、「人と楽しく交流すること」や「仲間づくりができた」と感じていることである。講座を通して自らの知識や技能の向上を図ることができたと、閉級式のアンケートにはある。公民館講座が受講生の生きがいや仲間づくりに有用であることを示している。

また、学校の授業や夏休み中の子ども対象の講座において、書道や絵手紙、陶芸など、受講生が学んでいることを子どもたちに伝えたり、学習の補助をしたりするボランティア活動を通して「他人のために役立つことができた」と実感している受講生は多い。書道や絵手紙などの学習内容に関連する活動のみだけでなく、町内の福祉施設でのボランティア活動や町内清掃、通学時の児童の見守りなど、地域活動に積極的に参画する受講生が増えていることが、ボランティア活動の記録ノート（学びの手帳・岡垣）から窺える。

## ■行政職員の役割

### ～行政職員の熱い思いが講座・住民・地域を変える～

職員は、毎回の「若潮便り」（受講生への連絡事項をまとめた便り）の発行、司会者の原稿作成、講師との打合せに司会者を交えるなどの工夫を重ね、講座の自主運営が円滑に行われるよう受講生のサポートに努めている。

また、年度初めの校長会で学校支援ボランティアへの理解を求め、普及啓発を行っている。職員と受講生（副班長）は町民文化祭の実行委員になり、受講生が地域活動に参画しやすい環境を整えている。

公民館講座の中に社会貢献の機会を盛り込む工夫を行い、行政が、関係機関と連携しながらボランティア活動の調整を図ったり、受講生が自治区のリーダーとして活動できるサポート体制を整えたりと意図的に仕掛けることで地域課題解決を目指している。

「若潮学級」「成人講座ゆうま」の詳細

目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の機会を提供する。</li> <li>・交流や仲間づくりの機会を提供する。</li> <li>・ボランティア活動や地域コミュニティづくりを担う人材を育てる。</li> </ul>																							
対象者	町内在住 20 歳以上の者																							
参加者数	若潮学級 81 人、成人講座ゆうま 92 人（H31.5.15 現在）																							
事業の詳細	<p>○運営…受講生による自主運営</p> <p>○世話人(役割分担)…班長、副班長(文化祭実行員を兼ねる)、会計係、出席係、接待係</p> <p>前期(5月～9月)と後期(10月～2月)で改選</p> <p>○活動内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>若潮学級</th> <th>成人講座ゆうま</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間回数</td> <td>16 回(第2, 4水曜日)</td> <td>16 回(第2, 4月曜日)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">講座時間</td> <td>午前 10 時～11 時 45 分 (教養講座)</td> <td rowspan="2">午前 10 時～12 時 (専門コース)</td> </tr> <tr> <td>午後 1 時～3 時 (専門コース)</td> </tr> <tr> <td>班長会議</td> <td>午前 11 時 45 分～12 時</td> <td>午前 9 時 20 分～</td> </tr> <tr> <td>専門コース</td> <td>かな書道初級、歌唱、色鉛筆画、陶芸</td> <td>かな書道中級、男性料理、リフォーム洋裁、体操、民謡</td> </tr> <tr> <td>自主運営</td> <td colspan="2">会場づくり・片付け、司会、講師接待、弁当予約、連絡網作成、などボランティア活動の日程調整及び実施など</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動</td> <td colspan="2">学校支援、子ども講座支援、町民文化祭参加、町内人権講演会参加など</td> </tr> </tbody> </table>			若潮学級	成人講座ゆうま	年間回数	16 回(第2, 4水曜日)	16 回(第2, 4月曜日)	講座時間	午前 10 時～11 時 45 分 (教養講座)	午前 10 時～12 時 (専門コース)	午後 1 時～3 時 (専門コース)	班長会議	午前 11 時 45 分～12 時	午前 9 時 20 分～	専門コース	かな書道初級、歌唱、色鉛筆画、陶芸	かな書道中級、男性料理、リフォーム洋裁、体操、民謡	自主運営	会場づくり・片付け、司会、講師接待、弁当予約、連絡網作成、などボランティア活動の日程調整及び実施など		ボランティア活動	学校支援、子ども講座支援、町民文化祭参加、町内人権講演会参加など	
	若潮学級	成人講座ゆうま																						
年間回数	16 回(第2, 4水曜日)	16 回(第2, 4月曜日)																						
講座時間	午前 10 時～11 時 45 分 (教養講座)	午前 10 時～12 時 (専門コース)																						
	午後 1 時～3 時 (専門コース)																							
班長会議	午前 11 時 45 分～12 時	午前 9 時 20 分～																						
専門コース	かな書道初級、歌唱、色鉛筆画、陶芸	かな書道中級、男性料理、リフォーム洋裁、体操、民謡																						
自主運営	会場づくり・片付け、司会、講師接待、弁当予約、連絡網作成、などボランティア活動の日程調整及び実施など																							
ボランティア活動	学校支援、子ども講座支援、町民文化祭参加、町内人権講演会参加など																							
予算の概要	<p>予算：約 300 万円</p> <p>受講生の負担：受講料は無料、実習に伴う教材費、年間資料代（若潮学級 1,000 円、成人講座ゆうま 600 円）</p>																							
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの受講生が、講座やボランティア活動を通して人と楽しく交流することで仲間づくりができています。</li> <li>・学んだことをボランティア活動につなげることができている。人の役に立てたと全員が充実感を持つコースもある。</li> </ul>																							
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の減少や固定化への対応。</li> <li>・講座内容を生かせるボランティア活動の在り方。</li> </ul>																							

## 【事例2】公募による市民企画講座

群馬県渋川市中央公民館他

「わくわく学び塾（渋川市  
自主企画生涯学習講座）」



— すぐに活用できる仕組み —

～公募による人材発掘・成果活用・講座の充実～

講座公募により、学習成果活用と学習機会提供を同時に実現

効果① <公募講師>

学習成果還元、講座の自主企画・運営によりスキルアップにつながる。

効果② <公民館>

地域の人材発掘・育成により、生涯学習機会の充実が図られる。

効果③ <地域>

人材が地域で積極的に行動し、地域住民相互のつながりが生まれる。

### ■事業の目的

～知識・技術の地域還元と生涯学習活動機会の充実～

中央公民館をはじめとする渋川市の各公民館は、地域住民の主体的な生涯学習活動を支援するとともに、公民館と地域との連携を強化し、生涯学習の推進と学習成果を生かし、魅力ある地域づくりに取り組んでいる。

渋川市自主企画生涯学習講座、愛称「わくわく学

び塾」は、市町村合併前の旧子持村で平成16年度に始まり、平成25年度から市内全域の公民館で実施されている。「日頃の生涯学習活動等により培った知識や技術などを地域に還元し、住民相互の親睦を図りながら、自分からすすんで行う生涯学習」であり、住民の自主的な活動を支援することを通じて、「元気で心豊かな地域づくりを目指す」ことが「わくわく学び塾」の目的である。

「わくわく学び塾」は、公募により講師（講座）を決定することを特徴としている。開催が決定した講座は、講師および受講生の運営に委ねられ、公民館は講座開催のサポート役を担う。

～渋川市～

・人口	77,477人
・世帯数	32,224世帯
・高齢化率	33.6%
・職員数	81人

### ■事業の仕組み

～公民館のサポートによる自主企画・自主運営の生涯学習講座～

「わくわく学び塾」の大きな特徴は、講師が公募であること、講座の運営が講座参

加者（講師及び受講生）による自主運営に委ねられていることである。

公募による講座の決定・開講という仕組みのねらいは、講師を希望する地域住民に自主的に手を挙げ、自ら進んで講座を企画・運営してもらうことにある。

開催が決定した講座について、公民館が受講生募集や会場の確保等、講座開催までの支援の役割を担うが、開講後は、あくまでも講師・受講生による自主運営に委ねている。

公募による自主企画という講座の性格上、とりわけ講師には、生涯学習・つながりづくりのリーダーとしての自覚、誇りをもって講座運営に取り組むことが期待されている。なお、講師への謝金は、受講料（1,000円/人）で賄われる。

### ■仕組みによる効果

～講師・受講生の積極的な参加、恒常的活動にもつながる～

事業開始以来、バラエティに富む講座企画案が地域住民から寄せられ、開催に至っており、渋川市における生涯学習講座として定着している。（平成30年度は32の企画応募、25講座を開講）

講師を中心とした自主企画、自主運営という仕組みは、受講生の講座への積極的な参加にもつながっている。わくわく学び塾発の公募企画講座は、講座の終了後、サークルとして恒常的な自主活動につながるケースが見られるなど、期待以上の成果が表れている。

受講生からは、「公民館に来るきっかけになった」、「新しい知り合いができた」、といった声が寄せられており、地域住民のつながりづくりのきっかけとして重要な役割も果たしている。

### ■行政職員の役割

～前に出過ぎず、講師のモチベーションアップに努める～

企画・運営を講師・受講生に委ねることを旨とする「わくわく学び塾」事業における公民館職員の役割は、講座の円滑な運営のサポートに加え、講師のモチベーションアップを図ることである。

本事業において公民館職員が心掛けているのは、運営面ではサポート役に徹することである。サポート役に徹することで、講師、受講生共同による自主的な運営を促している。

また、講座が単なる知識・技術の還元・習得のみにとどまることなく、つながりづくり・地域づくりの場となるよう、講師へのはたらきかけ、支援に努めている。講師への説明会においては、事業趣旨を説明し、「わくわく学び塾」の生涯学習講座としての位置づけの徹底を図っている。また、新たな取組として、講師の反省会を開催し、情報交換の場を設けるなど、講師間のネットワークづくりにも努めている。

「わくわく学び塾」の詳細

目 標	日頃の生涯学習活動等により培った知識や技術などを地域に還元し、住民相互の親睦を図りながら、自分からすすんで行う生涯学習の支援等を通して、元気で心豊かな地域づくりを目指す。									
対象者	講 師：教えることを生涯学習としたい個人・団体（市外在住者も可） 受講生：渋川市民									
講座数	平成 27 年度	28 年度	29 年度	30 年度						
	40/102	36/48	31/40	25/32						
※ 開講数/企画応募数										
受講者数 (延べ数)	平成 27 年度	28 年度	29 年度	30 年度						
	2,194 人	2,239 人	1,350 人	1,600 人						
事業の 詳細	<p>○開催講座 公募</p> <p>○運 営 講師・受講生による自主運営</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">公民館</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 開催講座の公募・決定</li> <li>● 受講生の募集</li> <li>● 会場確保</li> <li>● 講師・受講生の相談対応、緊急連絡等</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>講 師</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 講座運営管理</li> <li>● 書類管理</li> <li>● 受講生への連絡</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>受講生</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 会場準備・片付け</li> <li>● 受講記録簿記入・使用人数報告等</li> <li>● 集金</li> <li>● 受講生間の連絡</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>○受 講 料 1 講座 1,000 円</p> <p>○開講期間 5 月から翌年 2 月</p> <p>○講座回数 2 回以上 10 回まで（1 回 2 時間程度）</p> <p>○会 場 市内公民館（11 館）</p> <p>○講座内容 美術・音楽・手工芸・歴史・情報など生涯学習全般 競技スポーツは除く</p>				公民館	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開催講座の公募・決定</li> <li>● 受講生の募集</li> <li>● 会場確保</li> <li>● 講師・受講生の相談対応、緊急連絡等</li> </ul>	講 師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講座運営管理</li> <li>● 書類管理</li> <li>● 受講生への連絡</li> </ul>	受講生	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会場準備・片付け</li> <li>● 受講記録簿記入・使用人数報告等</li> <li>● 集金</li> <li>● 受講生間の連絡</li> </ul>
公民館	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開催講座の公募・決定</li> <li>● 受講生の募集</li> <li>● 会場確保</li> <li>● 講師・受講生の相談対応、緊急連絡等</li> </ul>									
講 師	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講座運営管理</li> <li>● 書類管理</li> <li>● 受講生への連絡</li> </ul>									
受講生	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 会場準備・片付け</li> <li>● 受講記録簿記入・使用人数報告等</li> <li>● 集金</li> <li>● 受講生間の連絡</li> </ul>									
予 算	「わくわく学び塾」としての予算措置はなし。 (講師謝金は受講料を充当、材料費等は受講生より徴収、光熱水費等は公民館の需用費)									
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の生涯学習リーダーの発掘・育成</li> <li>● 生涯学習講座の充実</li> <li>● 生涯学習成果活用機会の提供</li> <li>● 恒常的活動への移行（27 年度から 30 年度まで 10 講座）</li> </ul>									
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新規講師開拓、若年層の取り込み。</li> <li>● 内容が適当でない講座応募に対する対応。</li> </ul>									

### 【事例3】次世代の人材育成

## 広島県東広島市志和生涯学習センター

### 「中学生対象の地域リーダー養成講座」



#### — すぐに活用できる仕組み —

#### ～中学生が生涯学習センターでの学びを生かす～

##### センターと中学校が隣接する強みを生かした継続的な事業展開

##### 効果① <地域>

中学生と共に学び、交流することで、地域住民の学習意欲の高まりや生きがいにつながる。

##### 効果② <中学生>

地域住民と共に学び、交流することで、つながりができ、地域への愛着が生まれる。

##### 効果③ <生涯学習センター>

異世代の交流を通して地域住民の自主的、自発的な学びが深まり、地域のネットワークが広がる。

#### ■事業の目的

～中学生を対象とした人材育成 「一人一人が地域の一員」として

東広島市志和生涯学習センターでは、地域住民の自主的、自発的な学習活動を支援するために様々な事業を展開しており、その一つとして「地域リーダー養成講座～たまご育て編」を行っている。

本事業の前身として、平成27年度から成人を対象とした「欲張り講座」を実施し、地域サロンなどの地域の世話役を担っている方々の力量アップを図ってきた。

平成28年度からは、中学生を対象とした「地域リーダー養成講座～たまご育て編～」を開始。地域づくりに主体的に参画しようとする次世代の地域人材（地域リーダーのたまご）の育成を目的とし、「一人一人が地域の一員」という意識を持った中学生の育成に努めている。

更に平成29年度からは、「地域リーダー養成講座～たまご育て編」を発展させた「ふるさと大好き隊員養成講座」を展開している。

##### ～志和町～

- ・人口 6,582人
- ・世帯数 3,148世帯
- ・高齢化率 41.5%
- ・職員数 4人

(令和元年12月末現在)

#### 【人材育成事業に係る事業の流れ】

開始年度	対象	事業名
平成27年度～	成人	欲張り講座
平成28年度～	中学生	地域リーダー養成講座～たまご育て編～
平成29年度～	中学生 地域住民	ふるさと大好き隊員養成講座

## ■事業の仕組み

～隣接した強みを生かして、中学生の部活動を主催講座とコラボレーション～

「地域リーダー養成講座～たまご育て編～」では、志和中学校の生徒が、部活動（総合文化部）の一環として2ヶ月に1回～2回程度、志和生涯学習センターで様々なことを学んでいる。主な学習内容は、手話、手遊び、読み聞かせ、ゲームなどである。手遊びやゲームの学習では、子ども向け、高齢者向けなど、対象に応じた学習を行い、進行役も体験する。この講座では、毎回、中学生が目的意識、相手意識を持ちながら学習に臨むことができるよう学習プログラムが組まれている。

また、生徒の学習の成果活用として、年度末に実施される「センターまつり」への参画などがある。ボランティアスタッフとして、主に事前の準備、当日の受付、発表用の字幕作成、案内係、コーヒー販売などを行いながら、地域住民との交流を深め、そのことが学びと活動の好循環にもつながっている。

## ■仕組みによる効果

～中学生と高齢者、互いの存在がより良い生き方に反映されている～

志和生涯学習センターが志和中学校と隣接する強みを生かした事業を展開したことで、地域住民との信頼関係が構築されてきた。

また、部活動（総合文化部）の一環として始まった「地域リーダー養成講座～たまご育て編～」は、総合文化部の生徒たちが地域住民と交流する機会が増えていくことにつながった。その成果を生かして、平成29年度からは、異世代交流を軸とした事業「ふるさと大好き隊員養成講座」へと発展させ、系統的、継続的な人材育成事業が図られている。「ふるさと大好き隊員養成講座」では、中学1年生と地域住民を対象とし、中学生が、総合的な学習の時間に地域の方々と一緒にふるさとの歴史や文化を学んだり、高齢者の方々と百歳体操を行ったりしながら学びを深めている。「ふるさと大好き体験隊養成講座」においては、学習の成果活用場として、発表会が開かれ、中学生と地域住民が学びの成果を共有する場が設けられている。当日の司会進行やプレゼンテーションの発表資料作成などは、全て中学生が行っている。

中学生は、これらの講座を通して高齢者の方々に対しての見方や考え方が変わり、高齢者の方々は、中学生との学びの時間が生きがいにつながるなど、互いの存在が、より良い生き方に反映されている。

## ■行政職員の役割

～関係機関とのネットワークづくりと環境面の充実～

中学生と地域住民を生涯学習センターの主催講座でつなぐ取組には、センター職員の熱い思いと地域の子供たちへの深い愛情が感じられた。また、センター職員は、数年先の地域課題を視野に入れ、関係機関とのネットワークづくりにも着手している。

この他、生涯学習センターでは、環境面にも力を入れており、学びの足跡がわかる作品の掲示、地域住民が自宅で作製した作品の展示、貸出用の衣装展示などがある。

また、講座内容をクリアファイルにまとめ、来館者の興味がわくようにディスプレイを工夫している。細部にまでセンター職員のこだわりが感じられ、常に来館者視線を意識している様子が窺えた。

「地域リーダー養成講座～たまご育て編～」 「ふるさと大好き隊員養成講座」の詳細  
 (志和生涯学習センター作成資料から一部抜粋)

目 標	次世代の人材育成を図り、地域住民がつながりを持ち生活する。	
対象者	中学生、地域住民	
参加者	○地域リーダー養成講座～たまご育て編～ 中学生(総合文化部)…約30人 ○ふるさと大好き隊員養成講座 中学1年生、郷土史研究会、ニコニコ元気クラブ	
事業名	地域リーダー養成講座 ～たまご育て編～	ふるさと大好き隊員養成講座
教育課程との関係	部活動 総合文化部	総合的な学習の時間(1年)
事業の流れ	○期 間 通年 ○活動日 2ヶ月に1回～2回 部活動の時間帯に合わせて実施。 (学校側…担当職員参加。) ○時 間 90分間 ○活動計画 ・4月…オリエンテーション ※会場は、初回のみ志和中学校 ・5月…「手話体験」 ・6月…「手遊び」 ・7月…「レクリエーションゲーム」 ・8月…「車椅子体験」 ・9月…「ワールドカフェ体験」 ・10月…「字幕投影体験」 ・11月…「アイマスク体験」 ・12月…「手品」 ・3月…「センターまつり」への参画 ○講師 センター職員、ボランティアグループ など	○期 間 9月～12月 ○活動日 百歳体操の時間に総合的な学習の時間を合わせて実施。 ○時 間 2時間程度 ○活動内容 ・9月 ①「高齢者の人権について学習」 「百歳体操を百歳体操の会員と体験」 ②「郷土の歴史や遺跡についての学習」※現地学習 ・10月 ③「郷土の歴史について学習」 ④「志和をテーマとした短歌の学習」 ⑤「センター歌の練習」 ・12月 「学習成果発表会」 ○講師 東広島郷土史研究会、ボランティアグループ など
予算の概要	県公民館連合会 モデル事業の助成金 100,000円	
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生と地域住民の信頼関係づくりにつながった。</li> <li>・地域住民との学習や交流を積み重ねていくことで、中学生の自尊感情や自己有用感の高まり、地域への愛着が生まれた。</li> <li>・中学生との学習や交流活動が、地域住民の生きがいにつながった。</li> </ul>	
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業継続に向けた学校や関係機関との連携。</li> <li>・中学生の意見を取り入れた年間計画の作成。</li> </ul>	

## 【事例4】人材育成で講座をサポート

### 奈良県奈良市生涯学習センター

### 「パソコン学習サポーター・ 託児ボランティア」



#### すぐに活用できる仕組み

#### ～活動の場を準備し、養成講座を実施～

#### センター職員がコーディネートし学びと活動の好循環をつくる

- 効果①** <パソコン学習サポーター・託児ボランティア>  
自らのスキルアップとともに横のつながりができる。
- 効果②** <センター>  
サポーター等を地区公民館に派遣し講座をサポートできる。
- 効果③** <受講生>  
サポーター等の存在で、気軽に講座参加ができる。

#### ■事業の目的

#### ～人材育成を行い、社会貢献の場をつくる～

奈良市生涯学習センターは、地区公民館のモデルとなる事業を主な役割とし、奈良市内にある24の公民館の中心的な存在である。統一した事業計画方針に基づき、公民館がそれぞれの事業計画を立案し、「高齢社会」「男女共同参画」「青少年健全育成」

#### ～済美地区～

・人口	18,620人
・世帯数	9,241世帯
・高齢化率	29%
・職員数	8人

「家庭教育」「現代的課題」の5つの重点分野を軸に講座を実施している。奈良市生涯学習センターは、住宅街に立地しており、地域との積極的な連携が図られている。190余りの自主グループが登録されており、学習成果物を展示するギャラリーがあり、また学習発表の場としてサロンコンサートを開催するなど交流の場として有効活用もされている。

奈良市生涯学習センターの特徴的な事業として、「パソコン学習サポーター」と「託児ボランティア」がある。知識や技術を身に付け、実際に活動する人材を育成することが主たる目的であるとともに、退職後の第2・第3の人生を考えている人の社会貢献の場、パソコンサポーターや託児ボランティア間のつながりをつくる場にもなっている。パソコンサポーターや託児ボランティアの存在により、幅広い層に向けた講座実施が可能になっている。

## ■人材育成の仕組み

～養成講座で学び、実践し、学習会で振り返るサイクルが確立～

奈良市生涯学習センターは、主催講座として、ワードやエクセルの入門講座の他、デジカメを使った講座や、夏休みの子ども対象講座等を開催している。これらの主催講座でサポーターとして活動する人材を育成するため、パソコン学習サポーター養成講座も開催している。専門の外部講師の指導によるパソコン操作の知識や技術、サポーターとしてのマナーなどを習得後、講座ごとにサポーターの担当ワーキンググループ（以下「WG」）を編成する。WGは、テキスト選定や配布資料の作成、講師役の選任などを進める。WGは、講座開始日から逆算して準備の工程を決め、毎月1回開催する学習会において、模擬講座や実践した講座の振り返り等を行っている。



託児ボランティア養成講座では、近隣の大学や専門学校、こども園等から講師を招き、託児ボランティアの心構えや役割、乳幼児とのコミュニケーション術等について学ぶ。その後、先輩ボランティアとともに託児の実習を行い、ボランティア登録となる。学習会では、ボランティア同士の交流とともに技術の向上のため、託児シミュレーションや学び直しのための講座、託児内容の振り返り等を行っている。



## ■仕組みによる効果

～市民とセンターの協働で、市民の学びが広がる～

パソコン学習サポーターは平成17年（2005年）、託児ボランティアは平成20年（2008年）からの取組みである。長い時間をかけ、市民の方々の力を借りて協働で運営できるようになった。公民館の機能とともに、公民館のモデルとしての役割を持つ奈良市生涯学習センターにとっては、意義あることである。平成30年度におけるパソコン講座では、年間23日間にも及ぶ各種講座を実施し、受講者数は290名であった。託児の要請があった講座は28講座であり、延べ166人の託児ボランティアが従事した。子どもや子育て層の受講も可能となり、市民の学びに広がりを見せた。

## ■行政職員の役割

～活動の場をコーディネートし、技術向上へのアドバイス～

パソコン学習サポーターは、基本的にはサポーターの自主的な活動であるが、センター職員はすべての過程を見守る。市内の公民館へもサポーターの派遣を行っている。

託児ボランティアは、公民館からの託児の要請をセンター職員が集約し、ボランティアの調整を行う。

いずれも必要に応じて、センター職員がアドバイスを行う。事業を継続していくために、時には厳しいことを言わなければならない。長年培ったサポーターやボランティアとセンター職員との信頼関係が土台となっていることは言うまでもない。

「パソコン学習サポーター」「託児ボランティア」の詳細

目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識や技術を身に着け、実際に活動する人材を育成する。</li> <li>・社会貢献の場とし、市民同士のつながりをつくる。</li> </ul>																						
対象者	市内在住者																						
	パソコン学習サポーター	託児ボランティア																					
講座数等	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>講座数</th> <th>延べ日数</th> <th>総受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>12</td> <td>24</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>12</td> <td>23</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「講座数」は、市民向けのパソコン講座</p>	年度	講座数	延べ日数	総受講者数	H29	12	24	28	H30	12	23	29	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>講座数</th> <th>従事ボランティア数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>33</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>28</td> <td>166</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「講座数」は託児の要請があった講座</p>	年度	講座数	従事ボランティア数	H29	33	162	H30	28	166
年度	講座数	延べ日数	総受講者数																				
H29	12	24	28																				
H30	12	23	29																				
年度	講座数	従事ボランティア数																					
H29	33	162																					
H30	28	166																					
事業の流れ	<p>パソコン学習サポーター養成講座</p> <p>2～3年毎に開催。専門の外部講師を招き、パソコンの技術や知識はもちろん、講師またはサポーターとしてのマナーも習得。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>各種パソコン講座（実践）</p> <p>主に初心者向けの講座を年間に9～12講座程度、ワーキンググループごとに実施。</p> <p style="text-align: center;"> </p> <p>パソコン学習サポーター学習会</p> <p>登録サポーターを対象に、毎月1回人材育成を目的に実施。センター職員の指導で模擬講座等を実施。</p>	<p>託児ボランティア養成講座</p> <p>2年毎に開催。近隣の大学や専門学校から講師を招き、託児の技術や知識、役割等を習得。託児付き講座で先輩ボランティアとともに託児実習を行い、ボランティアとして登録。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>講座にて託児（実践）</p> <p>市内の公民館からセンターへ託児の依頼があり、センターがボランティアの調整を行う。ボランティア決定後は公民館とボランティアが直接打合せを実施。</p> <p style="text-align: center;"> </p> <p>登録託児ボランティア学習会</p> <p>養成講座の無い年度に開催。登録ボランティアを対象に年間7回程度、技術の向上とともに、ボランティア間の交流を目的に実施。</p>																					
予算の概要	有償（600円／時間）で講座に従事	有償（600円／時間）で託児に従事																					
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもから高齢者まで、幅広い層への講座の実施が可能になる。</li> <li>・社会貢献の場となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代を対象とした講座の実施が可能になる。</li> <li>・社会貢献の場となる。</li> </ul>																					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化により、サポーターの継続が難しい。</li> <li>・タブレットやスマホへと多様化が進んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの連絡調整が難しい。</li> <li>・託児に必要な人数のボランティアの確保が難しい。</li> </ul>																					



(2) (1)の講座等の合計実施回数を下から選んでください。(予定も含む)

- ア 1～5回
- イ 6～10回
- ウ 11～20回
- エ 21～30回
- オ 31回以上

(3) (1)の講座等の実施形態について、当てはまるものを選んでください。

- ア すべて1回ごとの単発の講座や講演会である。
- イ 連続した講座や講演会もある。  
(「連続した」とは、1つのテーマで異なる内容の講座を複数回実施すること)

(4) (1)の講座等の学習領域を選んだ理由は何ですか。〔複数回答可〕

- ア 地域の大きな課題だから
- イ これまで継続して実施しているから
- ウ 住民のニーズが高いから
- エ 他の市町村でも実施しているところが多いから
- オ 他部局や関係団体等との連携が可能だから
- カ 講師選定が容易だから
- キ 人が集まりやすいから
- ク その他

(5) (1)の講座等を実施するにあたり、連携・協力した個人・機関(構成員を含む)がありますか。

- ア ある  
連携・協力した個人・機関を下から選んでください。〔複数回答可〕
  - ア 他市町村教育委員会(公民館等を含む)
  - イ 首長部局
  - ウ 学校教育関係機関
  - エ 大学等高等教育関係機関
  - オ 社会教育関係団体
  - カ NPO法人他、民間団体
  - キ 民間企業
  - ク (講座受講生などの)一般住民
  - ケ その他  → 問2(6)へ
- イ ない → 問2(7)へ

(6) (5)の機関とは、どのような内容や場面で連携・協力しましたか。〔複数回答可〕

- ア 企画時の相談、情報提供
- イ 講師派遣等の人的支援
- ウ 施設設備、機材教材等の提供
- エ 参加者の募集等の広報面での補助・分担
- オ 事業の成果を広めるための連携・協力
- カ 経費面での補助・分担
- キ 当日の運営面での作業分担、協力
- ク その他

(7) (1)の講座等はどのような学習形態でしたか。〔複数回答可〕

- ア 講義・講演会形式
- イ ワークショップ
- ウ フォーラム・シンポジウム
- エ 現地学習
- オ 体験活動
- カ 個別相談
- キ その他

(8) 広報はどのような手段で行っていますか。〔複数回答可〕

- ア チラシ、ポスター配布
- イ 関係機関・団体への直接依頼(チラシの送付)
- ウ 回覧板での通知文回覧
- エ ホームページ掲載
- オ 広報誌掲載
- カ 広報誌以外の生涯学習に関する情報誌の発行
- キ SNSへの掲載
- ク 地域の無線利用
- ケ その他

(9) 講座評価をどのように行っていますか。〔複数回答可〕

- ア 参加者に対するアンケート調査
- イ 担当者等による評価
- ウ 外部委員による評価
- エ 講師による評価
- オ その他
- カ 実施していない

(10) どのような人が講師を務めましたか。〔複数回答可〕

- ア 生涯学習関係課職員や公民館職員
- イ 他部局の職員
- ウ 地域の人
- エ 県や他市町村からの派遣
- オ 大学・研究機関からの派遣
- カ 民間業者を介して依頼
- キ その他

(11) 講師情報をどのように得ていますか。〔複数回答可〕

- ア インターネット情報
- イ 住民(受講参加対象者)の要望
- ウ 他市町村に聞く
- エ 所属内で検討する
- オ リストを作成している
- カ 講座内容に関連した他部局や団体等に聞く
- キ 講師情報の提供を行っている機関等に聞く
- ク 例年同じ人に依頼
- ケ その他

(12) 住民が参加しやすいように、どのような支援を行っていますか。〔複数回答可〕

- ア 駐車場の確保
- イ 送迎バス等の運行
- ウ 託児の実施
- エ 手話通訳、要約筆記
- オ 音声ガイド
- カ スロープ、多目的トイレ等の設置
- キ 休日や夜間の開催
- ク その他

問3 学習成果活用を視野に入れた講座(人材育成や仲間づくり、仕組みづくり等)を実施しましたか。(予定も含む)

- ア 実施した(する予定)

(講座名)	(内容)

- イ 実施していない(予定していない)

問4 今後、住民への提供が必要だと考えられる学習について御記入ください。

### 子供を対象とした事業について

問5 本年度、子供を対象とした事業を何か実施しましたか。(予定も含む)

- ア 実施した(する予定)

(事業名)	(内容)

- イ 実施していない(予定していない)

### 生涯学習推進上の課題や悩み等について

生涯学習を推進する上での課題や悩みがありますか。

- ア ある → 問6へ
- イ ない

問6 問5で「ある」と答えた方にお聞きます。課題や悩みの内容をお教えてください。〔複数回答可〕

- ア 住民のニーズの把握が難しい
- イ 講座企画が難しい
- ウ 人が集まらない
- エ 受講生が固定化している・新規受講生の獲得が難しい
- オ 講師選定が難しい
- カ 首長部局や関係機関との連携が難しい
- キ 講座等で学習したことを活動につなげることが難しい
- ク 予算が限られている
- ケ 職員数が少ない
- コ 研修等に関する住民からの相談や対応が難しい
- サ 住民同士のつながりづくりが難しい
- シ 施設の老朽化が進んでいる
- ス その他

発 行 者：熊本県  
所 属：熊本県教育庁教育総務局  
社会教育課  
発行年度：令和元年度（2019年度）